

元 総社 蒼海 遺跡群 (51)～(55)・(66)～(68)

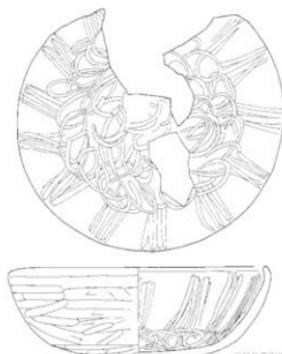
前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2014.3
前橋市教育委員会

元総社蒼海遺跡群

(51)～(55)・(66)～(68)

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書



2014. 3

前橋市教育委員会

1. 元絶社畜海遺跡群（53）から東（市街地方面）を望む



巻頭図版 2



2. 元総社畜海運群 (53) 全景



3. 元総社蒼海遺跡群（51）全景 南から



4. 元総社蒼海遺跡群（66）全景 西から

卷頭図版 4



5. 元総社蒼海遺跡群（66）W-1号溝跡調査風景 北から



6. 元総社蒼海遺跡群（67）全景 西から



7. 元總社蒼海遺跡群（67）H-1号住居跡出土遺物



8. 暗文を有する土器

は じ め に

前橋市は、関東平野の北西部に位置し、名山赤城山を背に利根川や広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情に溢れる県都です。市域は豊かな自然環境に恵まれ、2万年前から人々が生活を始めました。そのため市内のいたる所から、人々の息吹を感じられる遺跡や史跡、多くの歴史遺産が存在します。

古代において前橋台地には、広大に分布する穀倉地帯を控え、前橋天神山古墳などの初期古墳をはじめ、王山古墳・天川二子山古墳といった首長墓が連綿と築かれ、上毛野国を中心として栄えました。また、続く律令時代になってからは総社・元総社地区に山王庵寺、国分僧寺、国分尼寺、国府など上野国の中核をなす施設が次々に造られました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎧をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東三名城の一つに数えられる厩橋城が築かれました。

やがて近代になると、生糸の大生産地であり、横浜港から前橋シルクの名前で遠く海外に輸出され日本の発展の一翼を担いました。

今回、報告書を上梓する元総社蒼海遺跡群(51)、(52)、(53)、(54)、(55)、(66)、(67)、(68)は古代上野国の中核地域の調査であります。上野国府推定地域に近接することから、調査成果に多くの注目を集めております。今回の調査では、国府そのものに迫る遺構の検出には至りませんでしたが、古墳～平安時代の堅穴住居跡を中心とする集落跡などが検出されました。住居跡からは螺旋状の文様が施された器など国府に関連する遺物が出土しています。

今は一本の糸に過ぎない調査成果も織り上げて行けば、国府や国府のまちの姿を再現できるものと考えております。

残念ながら、現状のまでの保存が無理なため、記録保存という形になりましたが、今後、地域の歴史・前橋の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができました。

最後になりましたが、この調査事業を円滑に進められたのは、関係機関や各方面的ご配慮の結果といえます。また、極暑の中、直接調査に携わってくださった担当者・作業員のみなさんには厚くお礼申しあげます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

平成26年3月

前橋市教育委員会

教育長 佐藤博之

例 言

1. 本報告書は、前橋都市計画事業元総社苔海土地区画整理事業に伴う元総社苔海遺跡群(51)、(52)、(53)、(54)、(55)、(66)、(67)、(68)発掘調査報告書である。
2. 調査主体は、前橋市教育委員会である。
3. 発掘調査の要項は次のとおりである。

調査場所 群馬県前橋市元総社町1732-1 ほか
発掘調査期間 平成25年7月1日～平成25年11月27日
整理・報告書作成期間 平成25年12月2日～平成26年3月7日
発掘・整理担当者 小峰 篤・渡辺亮介《埋蔵文化財係》
4. 本書の原稿執筆・編集は小峰・渡辺が行った。
5. 発掘調査・整理作業にかかわった方々は次のとおりである。

青木あつ子・青木麻耶・佐藤 修・瀧上政信・仲野正人・町田妙子・真庭武志・峰岸あや子・湯浅たま江・湯浅道子
6. 発掘調査で出土した遺物は、前橋市教育委員会文化財保護課で保管されている。

凡 例

1. 指図中に使用した北は、座標北である。
2. 指図に国土交通省国土地理院発行の1:200,000地形図(宇都宮、長野)、1:25,000地形図(前橋)、1:6,000前橋市現形図を使用した。
3. 遺跡の略称は、25A149、25A150、25A151、25A153、25A154、25A165、25A166、25A167である。
4. 遺構及び遺構施設の略称は、次のとおりである。

H…古墳・奈良・平安時代の堅穴住居跡 J…繩文時代の住居跡 T…堅穴状遺構 I…井戸跡
O…風倒木跡 B…掘立柱建物跡 W…溝跡 A…道路状遺構 JD…繩文土坑
P…ピット・貯蔵穴
5. 遺構・遺物の実測図の縮尺は、原則的に次のとおりである。その他、各図スケールを参照されたい。

遺構 全体図…1/200、住居跡・堅穴状遺構・溝跡・土坑・ピット…1/60、竈・炉断面図…1/30
遺物 土器…1/3、1/4、石器・石製品・土製品…2/3、1/3、鉄器・鉄製品…1/2、瓦…1/6
6. 計測値については、()は現存値、[]は復元値を表す。
7. セクション注記と遺物観察表の色調について新版標準土色帳(小山・竹原 1967)を基準とした。
8. 遺構平面図-----は推定線を表す。
9. スクリーントーンの使用は、次のとおりである。

遺構平面図 烧土… 粘土…
遺構断面図 横築面…
遺物実測図 頸唇器断面…
 灰釉陶器断面…
 灰釉陶器表面…
 綠釉陶器断面…
 内黑…
 粘土、たたき…
 いぶし焼成…
 煤、炭化物付着…
 石；煤、被熱痕…
10. 主な火山降下物等の略称と年代は次のとおりである。

As-B (浅間B軽石：供給火山・浅間山、1108年)
Hr-FP (榛名二ヶ岳伊香保テフラ：供給火山・榛名山、6世紀中葉)
Hr-FA (榛名二ヶ岳浜川テフラ：供給火山・榛名山、6世紀初頭)
As-C (浅間C軽石：供給火山・浅間山、4世紀前半～中葉)

目 次

は じ め に

I 調査に至る経緯	1
II 遺跡の位置と環境	
1 遺跡の立地	1
2 歴史的環境	1
III 調査方針と経過	
1 調査方針	7
2 調査経過	7
IV 基本層序	20
V 遺構と遺物	21
VI ま と め	42

図 版

- 口絵 1 元総社蒼海遺跡群 (53) から東 (市街地方面)
を望む
- 2 元総社蒼海遺跡群 (53) 全景
- 3 元総社蒼海遺跡群 (51) 全景
- 4 元総社蒼海遺跡群 (66) 全景
- 5 元総社蒼海遺跡群 (66) W-1 号溝跡調査風景
- 6 元総社蒼海遺跡群 (67) 全景
- 7 元総社蒼海遺跡群 (67) H-1 号住居跡出土遺物
- 8 暗文を有する土器
- PL. 1 (51) 全景、(51) H-1～3号住居跡、出土遺物
 2 (51) H-3～6号住居跡、(53) H-1号住居跡、
出土遺物
 3 (53) 遠景、(53) 全景
 4 (53) H-2・4・7・8・11号住居跡、出土遺物
 5 (53) H-12・17号住居跡、出土遺物
 6 (53) H-19・21～23・28号住居跡、W-1号溝跡、
D-1号土坑
 7 (53) D-2・8・13号土坑、(52) 全景、(54) 全景、(55) 全景、(55) W-3号溝跡
 8 (66) 全景、(66) H-2号住居跡、(66) W-1号
溝跡
 9 (66) H-3号住居跡、I-1号井戸跡、出土遺物、
(67) 全景、(67) W-1号溝跡
 10 (67) W-1号溝跡、(67) H-1号住居跡、出土
遺物
 11 (67) H-2号住居跡、出土遺物、(68) 全景、(68)
H-1号住居跡、T-1号堅穴状道構、D-2号
土坑
 12 出土遺物 (1)
 13 出土遺物 (2)
 14 出土遺物 (3)
 15 出土遺物 (4)
 16 出土遺物 (5)
 17 出土遺物 (6)

- Fig. 13 (51) H-1～3号住居跡 46
 14 (51) H-4～6号住居跡、
 (53) H-2号住居跡 47
 15 (53) H-1号住居跡 48
 16 (53) H-3・4・7号住居跡 49
 17 (53) H-8・9・11号住居跡 50
 18 (53) H-12号住居跡 51
 19 (53) H-16～19号住居跡 52
 20 (53) H-21～23号住居跡 53
 21 (53) H-24・28号住居跡、
 D-1～4号土坑 54
 22 (53) D-5～16号土坑、W-1号溝跡 55
 23 (53) W-2号溝跡、(55) H-1・2号
住居跡、W-2・3号溝跡、D-1号土坑 56
 24 (66) H-1・2号住居跡 57
 25 (66) H-2・3号住居跡 58
 26 (66) W-1号溝跡、D-1号土坑、
 I-1・2号井戸跡 59
 27 (67) H-1・2号住居跡 60
 28 (67) H-3号住居跡、W-1号溝跡、
 D-1号土坑、(68) H-1号住居跡 61
 29 (68) T-1号堅穴状道構、D-1～5・
 7・9号土坑 62
 30 (51) H-1・2号住居跡出土遺物 63
 31 (51) H-3～5号住居跡出土遺物、
 (53) H-1・2号住居跡出土遺物 64
 32 (53) H-4・7・8・11・12号住居跡
出土遺物 65
 33 (53) H-12・17・19・21・22・23・28号
住居跡出土遺物 66
 34 (53) D-7・13・14号土坑、(66) H-3号
住居跡、W-1号溝跡出土遺物 67
 35 (67) H-1号住居跡出土遺物 68
 36 (67) H-2・3号住居跡、W-1号溝跡、
 (68) H-1号住居跡、T-1号堅穴状道構、
表探出土遺物、(53) 及び (68) 出土古銭 69
 37 鉄製品、石製品、瓦 70

挿 図

- Fig. 1 元総社蒼海遺跡群位置図 2
 2 周辺遺跡図 4
 3 グリッド設定図 10
 4 元総社蒼海遺跡群 (51) 調査区全体図 12
 5 元総社蒼海遺跡群 (52) 調査区全体図 13
 6 元総社蒼海遺跡群 (53) 調査区全体図 14
 7 元総社蒼海遺跡群 (54) 調査区全体図 15
 8 元総社蒼海遺跡群 (55) 調査区全体図 16
 9 元総社蒼海遺跡群 (66) 調査区全体図 17
 10 元総社蒼海遺跡群 (67) 調査区全体図 18
 11 元総社蒼海遺跡群 (68) 調査区全体図 19
 12 基本層序 20

- Tab. 1 元総社蒼海遺跡群周辺遺跡概要一覧表 5
 2 堅穴住居跡・堅穴状道構計測一覧表 33
 3 溝跡計測一覧表 35
 4 土坑・ピット・井戸跡等計測一覧表 36
 5 元総社蒼海遺跡群 (51) 出土土器観察表 37
 6 元総社蒼海遺跡群 (53) 出土土器観察表 37
 7 元総社蒼海遺跡群 (66) 出土土器観察表 38
 8 元総社蒼海遺跡群 (67) 出土土器観察表 39
 9 元総社蒼海遺跡群 (68) 出土土器観察表 39
 10 石器・石製品観察表 40
 11 鉄器・鉄製品観察表 40
 12 出土古銭観察表 40
 13 瓦観察表 41

I 調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴い実施され、15年目にあたる。本調査地は、周辺で埋蔵文化財調査が長年にわたって行われていることから、遺跡地であることが確認されている。

平成25年6月10日付けで、前橋市長 山 本 龍より前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出された。前橋市教育委員会では実施について協議を行い、これを受諾し、平成25年6月11日付けで、調査依頼者である前橋市長 山 本 龍に対し前橋市教育委員会による発掘調査を実施する旨の回答を行った。これを受け平成25年7月1日から現地での発掘調査を開始するに至った。

なお、遺跡名称「元総社蒼海遺跡群(51)」(遺跡コード：25A149)、「元総社蒼海遺跡群(52)」(遺跡コード：25A150)、「元総社蒼海遺跡群(53)」(遺跡コード：25A151)、「元総社蒼海遺跡群(54)」(遺跡コード：25A153)、「元総社蒼海遺跡群(55)」(遺跡コード：25A154)、「元総社蒼海遺跡群(66)」(遺跡コード：25A165)、「元総社蒼海遺跡群(67)」(遺跡コード：25A166)、「元総社蒼海遺跡群(68)」(遺跡コード：25A167)の「元総社蒼海遺跡群」は区画整理事業名を採用し、数字の「(51)～(55)・(66)～(68)」は過年度に発掘調査を実施した遺跡と区別するために付したものである。

II 遺跡の位置と環境

1 遺跡の立地

前橋市は、利根川が赤城・榛名の両火山の裾合を経て関東平野を望むところに位置し、地形・地質の特徴から、北東部の赤城火山斜面、南西部の前橋台地利根川右岸、南部から南西部にかけての前橋台地の利根川左岸、東部の広瀬川低地帯という4つの地域に分けられる。

本遺跡の立地する前橋台地は、約24,000年前の浅間山噴火によって引き起こされた火山泥流堆積物とそれを被覆するローム層(水成)から成り立っている。台地の東部は、広瀬川低地帯と直線的な崖で囲まれていて、台地の中央には現利根川が貫流している。現在の利根川の流路は中世以降のもので、旧利根川は現在の広瀬川流域と推定される。台地の西部には榛名山麓の相馬ヶ原扇状地が広がり、榛名山を源とする中小河川が利根川に向かって流下し、台地面を刻んで細長い微高地を作り上げている。総社・元総社付近の染谷川や牛池川は、微高地との高差3m～5mを測り、段丘崖上は高燥な台地で、桑畠を主とした畠地として利用されてきた。

本遺跡は、前橋市街から利根川を隔て、西へ約3kmの地点、前橋市元総社町地内に所在している。南東へ約1kmの所に上野国総社神社があり、すぐ西には関越自動車道が南北に走っている。さらに、遺跡地の南側には国道17号線、県道足門・前橋線が東西に走り、東側には主要地方道前橋・安中・富岡線が南北に走り、これらの幹線道路を中心にオフィスビルや大規模小売店が進出している。本遺跡はこれらの幹線道路から奥に入ったところに位置し、周囲には田畠が多い住宅地という静かで落ち着いた環境である。

2 歴史的環境

本遺跡地周辺には、古墳時代後期から終末までの上野地域と中央政権との関連をうかがわせる総社古墳群と山王庵寺、古代の中心地であった上野国府、さらに、中世には長尾氏により国府の堀割を利用し築かれたとされる蒼海城があり、歴史的環境に優れている。周辺の埋蔵文化財発掘調査によって、これまで連綿と続いてきた歴史

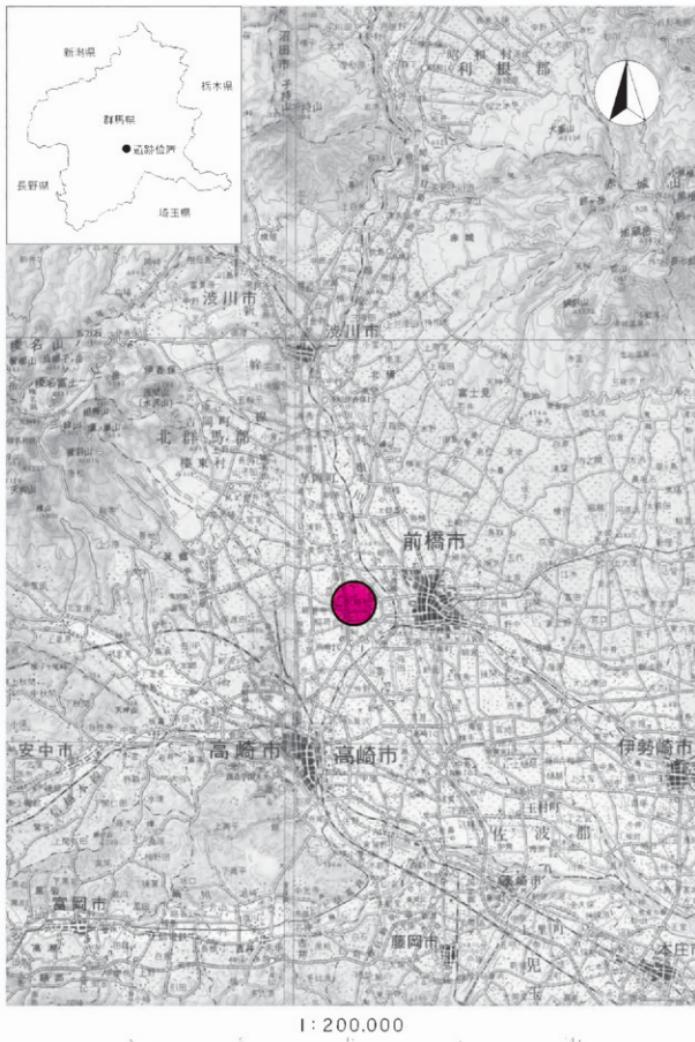


Fig. 1 元總社蒼海遺跡群位置図

を物語る多くの新しい見知が集積されている。

繩文時代の遺跡としては、前期・中期の集落跡が検出された産業道路東・西遺跡や上野国分僧寺・尼寺中間地域が筆頭に挙げられ、縄文文化を考える上で重要な資料といえる。

弥生時代の調査例は少ない。当時の稻作の様子を示す水田・集落跡等が検出された日高遺跡、後期住居跡が検出された上野国分僧寺・尼寺中間地域や桜ヶ丘遺跡、下東西遺跡等に散見するだけである。

古墳時代の遺跡としては、まず本遺跡の北東に広がる総社古墳群が挙げられる。総社古墳群を代表するものは、前方後円墳である遠見山古墳、川原石を用いた積石塚である王山古墳、前方部と後円部にそれぞれ横穴式両袖型の石室が築造された前方後円墳の總社二子山古墳、両袖型横穴式石室をもつ方墳の愛宕山古墳、県内古墳最終末期と考えられ仏教文化の影響を強く受けた方墳の宝塔山古墳があり、この地域と中央との関係を考えるうえで重要な意味をもつ古墳群といえる。また、宝塔山古墳の南西500mには白鳳期の建立と考えられる王山庵跡(放光寺)がある。さらにこの寺の塔心礎や石製鰐尾、根巻石等の石造物群は、宝塔山古墳の石棺や蛇穴山古墳の石室と同系統の石造技術を駆使して加工されている。これらのことから、この寺は上野地域を治めていた「上毛野氏」の氏寺であり、この古墳群には「上毛野氏」一族が葬られているとも考えられている。これらから、この地が「車評」の中心地として、仏教文化が古墳文化と併存しながら機能していた様子が窺える。なお、平成18年度から5ヵ年計画で「王山庵跡範囲内容確認調査」が実施され、平成18年度では「講堂」の版築基壇や「回廊」の北東根石、平成19年度では「金堂」の版築基壇や「回廊」の西側根石が、平成20年度では「塔」の基壇とその周辺部が確認された。平成21年度では「推定中門」と「西側南側回廊」の周辺部が確認された。

奈良・平安時代になると、上野国府、国分僧寺、国分尼寺の建設と相まって、本地域は古代の政治的・経済的・文化的の中心地としての様相を呈してくる。律令期における国司の政治活動拠点で地方を統治する機能をもつ国府は、元總社地区に置かれたとされる。

国府に関連する遺跡には、県下最大級の掘立柱建物跡が検出された元總社小学校校庭遺跡や「國厨」「曹司」「國」「邑厨」等と書かれた墨書き土器や人形が出土した元總社寺庭遺跡などがある。また、国府城の推定を可能にした大規模な東西方向の溝跡が検出された閑泉橋遺跡や元總社蒼海遺跡群(7)(9)(10)と南北方向の溝跡が検出された元總社明神遺跡の調査成果により、国府城の東北外郭線が想定されるに至った。さらに、周辺遺跡からは、官人が用いたと考えられる円面鏡、巡方(腰帯具)、綠釉陶器も出土し、国府について考えるうえで貴重な資料となっている。

国分僧寺は大正15年に国指定史跡となり、昭和40年代から部分的ながら調査が進められるようになった。本格的な発掘調査は昭和55年12月から始まり、主要伽藍の礎石、築垣、堀等が確認されている。さらに、国分尼寺の調査では、昭和44、45年に推定中軸線上のトレンチ調査が行われ伽藍配置が推定できるようになった。さらに平成12年に前橋市埋蔵文化財発掘調査団で南辺の寺域確認調査を行い、東南隅と西南隅の築垣、それと平行する溝跡や道路状構造が確認された。国分僧寺、国分尼寺周辺では、閑却自動車道建設に伴う発掘調査が行われ、上野国分僧寺、尼寺中間地域では、当時の大規模な集落跡や掘立柱建物群が検出されている。

また、群馬町(現高崎市)の調査等により、本遺跡から約1.5km南の地点にN-64-E方向の東山道(国府ルート)があることが推定されている。推定日高道は、日高遺跡で検出された幅約4.5mの道路状構造を国府方面へ延長したものである。これらは、当時の交通網を物語る重要な遺構である。

中世に至り、永享元年(1429)、上野国守護代の長尾氏によって古代国府跡に築かれた蒼海城は城郭としての機能を有し県内でも最古級に位置づけられる。しかも、県下最初の城下町を形成したと考えられている。蒼海城の縄張りは国府と関係が深く、現在の本地域の主要道路はこの縄張りに沿って造られていると推測される。

このように歴史的に重要な役割を果たしてきた總社・元總社地区であるが、その中でも上野国府が所在したと推定される元總社地区は注目される地域の一つである。元總社蒼海土地区画整理事業に伴い、平成11年より継続

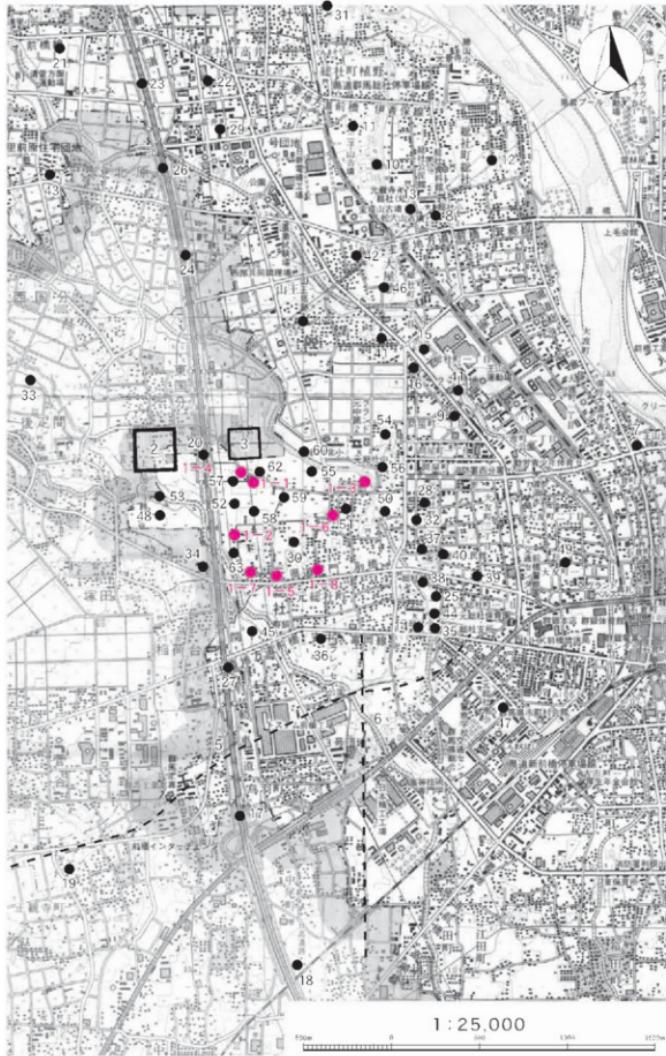


Fig. 2 周辺道路図

Tab. 1 元總社貢海遺跡群周辺遺跡概要一覧表

番号	道路名	調査年度	時代：主な遺構・出土遺物
1-1	元總社貢海遺跡群 (51)	2013	本遺跡
1-2	元總社貢海遺跡群 (52)	2013	本遺跡
1-3	元總社貢海遺跡群 (53)	2013	本遺跡
1-4	元總社貢海遺跡群 (54)	2013	本遺跡
1-5	元總社貢海遺跡群 (55)	2013	本遺跡
1-6	元總社貢海遺跡群 (66)	2013	本遺跡
1-7	元總社貢海遺跡群 (67)	2013	本遺跡
1-8	元總社貢海遺跡群 (68)	2013	本遺跡
2	上野岡分寺跡 (熊教委)	1980~88	奈良：金堂基壇・塔基壇
3	上野岡分尼寺跡	(1999)	奈良：西南隅・東南隅基壇
4	山王庵寺跡	(1974)	古墳：塔心礎・根巻石
5	東山道 (推定)		
6	日高道 (推定)		
7	王山谷塙	1972	古墳：前方後円墳 (6 C中)
8	蛇穴山古墳	1975	古墳：方墳 (8 C初)
9	船岡北古墳	1988	古墳：円墳 (6 C後半)
10	愛宕山古墳	1996	古墳：円墳 (7 C初)
11	總社二子山古墳	未調査	古墳：前方後円墳 (6 C末~7 C初)
12	遠見山古墳	未調査	古墳：前方後円墳 (5 C後半)
13	宝塔山古墳	未調査	古墳：方墳 (7 C末)
14	元總社小学校校庭遺跡	1962	平安：掘立柱建物跡・柱穴跡・周溝跡
15	產業道路東遺跡	1966	調文：住居跡
16	產業道路西遺跡		調文：住居跡
17	中尾遺跡 (事業地)	1976	奈良・平安：住居跡
18	日高通路 (事業地)	1977	弥生：水田跡・方形周溝墓・住居跡・木製農耕具。平安：条里制水田跡
19	正勝ノ道跡 I~IV (高崎市)	1979~81	弥生：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
20	上野岡分僧寺・尼寺中間地域 (事業地)	1980~83	調文：住居跡・配石遺構。弥生：住居跡・方形周溝墓。古墳：住居跡。奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・中世：掘立柱建物跡・溝状遺構・道路状遺構
21	諸里町部道跡群・Ⅲ	1980	調文：ビクト・奈良・平安：住居跡・溝跡
22	中島通路	1980	奈良・平安：住居跡
23	下東西通路 (事業地)	1980~84	調文：屋内埋甕。弥生：住居跡、古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝跡。中世：住居跡・溝跡
24	国分道跡 (事業地)	1990	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
	国分日道跡	1991	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
	国分境田道跡 (群馬町)	1991	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・墓跡。中世：土壙墓
25	元總社神明道跡 I~XIII	1982~96	古墳：住居跡・水田跡・礎跡・奈良・平安：住居跡・溝跡・大型人形・中世：住居跡・溝跡・大日系礎
26	北原道跡 (群馬町)	1982	調文：土坂・集石遺構。古墳：水田跡・奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡
27	鳥羽通路 (事業地)	1978~83	古墳：住居跡・鍛冶場跡。奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡 (神殿跡)
28	関泉橋遺跡	1983	奈良・平安：溝跡 (上幅6.5~7 m、下幅3.24m、深さ2 m)
29	新木造跡・日遺跡	1983,88	奈良・平安：住居跡・溝跡
30	草作遺跡	1984	古墳：住居跡・平安：住居跡・中世：井戸跡
31	桜乞之道跡		弥生：住居跡
	元總社桜ヶ丘道跡・II道跡	1985,87	奈良・平安：住居跡
32	関原町南道跡	1985	古墳：住居跡・奈良・平安：溝跡
33	後尾足道跡 I~III (群馬町)	1985~87	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・中世：道路状遺構
34	綾田村東道跡 (群馬町)	1985	平安：住居跡
35	寺田通路	1986	平安：溝跡・木製品
36	天神通路・日遺跡	1986,88	奈良・平安：住居跡
37	星敷通路・II道跡	1986,95	古墳：住居跡・平安：住居跡・中世：堀跡・石敷構

番号	道跡名	調査年度	時代：主な遺構・出土遺物
38	大友屋敷II・田道跡	1987	古墳；住居跡・平安；住居跡・溝跡・地下式土坑
39	頸越日道跡	1987	奈良・平安；住居跡・溝跡
40	頸越日道跡	1988	平安；住居跡
41	昌榮寺向道跡・日道跡	1988	奈良・平安；住居跡
42	村東道跡	1988	古墳；住居跡・溝跡・奈良・平安；住居跡・中世；堀跡
43	熊野谷II・田道跡	1988	圓文；住居跡・平安；住居跡・溝跡
43	熊野谷II・田道跡	1989	平安；住居跡
44	元能社寺田道跡I～III(事業組)	1988～91	古墳；水田跡・溝跡・奈良・平安；住居跡・溝跡・人形・葦串・墨書き器・中世；溝跡
45	弥勒道跡・日道跡	1988,95	古墳；住居跡・平安；住居跡
46	大居盤道跡I～VI	1992～2000	圓文；住居跡・古墳；住居跡・奈良・平安；住居跡・中世；掘立柱建物跡・地下式土坑・溝跡
47	元社社植葉道跡	1993	圓文；土坑・平安；住居跡・瓦塔
48	上野分寺參道跡	1996	古墳；住居跡・平安；住居跡
49	大友宅地添道跡	1998	平安；水田跡
	總社御泉明神北道跡	1999	古墳；昌榮・水田跡・溝跡・中世；溝跡
	總社御泉明神北日道跡	2001	古墳；住居跡・溝跡・平安；住居跡・溝跡
50	總社御泉明神北道跡	2004	古墳；水田跡・奈良・平安；住居跡
	元總社蒼海道跡群(7)	2005	奈良・平安；住居跡・溝跡
	元總社蒼海道跡群(9)・(10)	2006	古墳；住居跡・奈良・平安；住居跡・掘立柱建物跡・溝跡
51	元總社宅地道跡I～23トレンチ	2000	古墳；住居跡・平安；住居跡・掘立柱建物跡・鋸削場跡・溝跡・道路状遺構・中世；溝跡・近世；住居跡・五輪塔・塊塗
52	元總社小見道跡	2000	圓文；住居跡・古墳；住居跡・奈良・平安；住居跡・掘立柱建物跡・溝跡・道路状遺構
53	元總社川西道跡(事業組)	2000	古墳；住居跡・昌榮・奈良・平安；住居跡・溝跡
54	總社大福荷原大西道跡	2001	奈良・平安；住居跡・溝跡・中世；昌榮・近世；溝跡
	總社大福荷原大西日道跡	2001	古墳；住居跡・奈良・平安；住居跡・溝跡・近世；溝跡
	元總社小見内田道跡	2001	古墳；住居跡・溝跡・奈良・平安；住居跡・掘立柱建物跡・溝跡・中世；掘立柱建物跡・溝跡
55	元總社小見内VI道跡	2003	奈良・平安；住居跡・溝跡・中世；井戸跡
	元總社蒼海道跡群(12)	2006	古墳；住居跡・奈良・平安；住居跡・中世；井戸跡
	總社大福荷原大西田道跡	2002	古墳；住居跡・奈良・平安；住居跡・昌榮・溝跡
	總社御泉明神北田道跡	2002	圓文；住居跡・古墳；住居跡・奈良・平安；住居跡
	總社大福荷原大西北IV道跡	2003	古墳；昌榮・中世；溝跡
	元總社小見II道跡	2002	圓文；住居跡・古墳；住居跡・奈良・平安；住居跡・掘立柱建物跡・溝跡・道路状遺構
57	元總社小見IV・V道跡	2003	圓文；住居跡・古墳；住居跡・奈良・平安；住居跡・中世；掘立柱建物跡
	元總社小見VI・V道跡	2004	圓文；住居跡・古墳；住居跡・奈良・平安；住居跡
	元總社蒼海道跡群(4)	2005	圓文；住居跡・古墳；住居跡・奈良・平安；住居跡
58	元總社小見田道跡	2002	圓文；住居跡・古墳；住居跡・奈良・平安；住居跡・溝跡・中世；溝跡・道路状遺構
	元總社草作V道跡	2002	古墳；住居跡・奈良・平安；住居跡・中世；溝跡
	元總社小見IV道跡	2002	奈良・平安；住居跡・掘立柱建物跡・溝跡・中世；土壤基・掘立柱建物跡・溝跡
	元總社小見内Ⅳ道跡	2003	奈良・平安；住居跡・溝跡・中世；聚穴状遺構
59	元總社小見IN・X道跡	2004	古墳；住居跡・奈良・平安；住居跡・工房跡・粘土抹牆坑・金片・金片・中世；溝跡・土壤基
	元總社蒼海道跡群(2)・(6)	2005	古墳；住居跡・奈良・平安；住居跡・井戸跡・中世；溝跡
	元總社蒼海道跡群(11)	2006	古墳；住居跡・奈良・平安；住居跡・中世；溝跡
60	元總社北川道跡(事業組)	2002～04	古墳；水田跡・奈良・平安；住居跡・昌榮・中世；掘立柱建物跡・水田跡・火葬基
61	稻荷坂東道跡(事業組)	2003	古墳；住居跡・奈良・平安；住居跡・溝跡・電構架材探査坑・井戸跡
62	元總社小見内Ⅳ道跡	2003	圓文；住居跡・奈良・平安；住居跡・掘立柱建物跡・中世；昌榮・溝跡
	元總社蒼海道跡群(1)・(5)	2005	奈良・平安；住居跡・溝跡・中世；溝跡・土壤基
	元總社蒼海道跡群(8)	2006	奈良・平安；住居跡・鋤軒陶器

* 調査年度の欄の（ ）は調査開始年度を表す。

* 道跡名の横の（事業組）は（公財）群馬県埋蔵文化財調査事業団を表す。

的に本地域の発掘調査が行われている。これにより、手付かず状態であった本地域の全容が明らかになっていくであろう。今後、この調査の進捗によって、上野国府や蒼海城が解明されていくことを期待する。

III 調査方針と経過

1 調査方針

発掘調査を依頼された箇所は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴い、掘削が及ぶ道路用地等である。調査面積は、元総社蒼海遺跡群(51) 143m²、元総社蒼海遺跡群(52) 16m²、元総社蒼海遺跡群(53) 394m²、元総社蒼海遺跡群(54) 78m²、元総社蒼海遺跡群(55) 151m²、元総社蒼海遺跡群(66) 155m²、元総社蒼海遺跡群(67) 89m²、元総社蒼海遺跡群(68) 78m²、総調査面積は、1,104m²である。遺構番号は、遺跡ごとに個別に付番することとし、51-H-1号住居跡、53-H-1号住居跡のように、遺構の前に必ず遺跡番号を付すこととした。

グリッド座標については国家座標（日本測地系）X = +44000 · Y = -72200を基点（X 0 · Y 0）とする4mピッチのものを使用し、元総社蒼海遺跡群(51)においては、西から東へX71、72、73…、北から南へY102、103、104…と付番し、グリッド呼称は北西杭の名称を使用した。

本遺跡のX72・Y106の公共座標は以下のとおりである。

日本測地系	X = +43,576.000	Y = -71,912.000	
緯 度	36°23'24",.3573	経 度	139°01'53".8586
子午線収差角	28°32"	増 大 率	0.999963

調査方法については、表土掘削・遺構確認・方眼杭等設置・遺構掘下・遺構精査・測量・全景写真の手順で行うこととした。このうちの遺構確認については、基本的にAs-C軽石、Hr-FP軽石、As-B軽石が混入する土層を手がかりとした。

図面作成は、平板・簡易造り方測量を用い、遺構平面図は原則として1/20、住居跡図は1/10の縮尺で作成した。遺物については平面分布図を作成し、台帳に各種記録を記載しながら収納した。包含層の遺物はグリッド単位で収納し、重要遺物については分布図・遺物台帳の記載を行い収納した。

2 調査経過

現地調査は平成25年7月1日から11月27日まで行った。調査経過は下記のとおりである。

元総社蒼海遺跡群(51) … 7月2日から重機による表土掘削を行った。As-B混土層が予想より厚く堆積しており、遺構確認面は地表から1m50cm以上の深さとなった。これにより掘削には3日間を要した。地山が黒色粘土層のため水はけが悪く、降雨の度調査区が冠水する事態に見舞われた。検出された遺構は堅穴住居跡が6軒である。遺構数は少なかったが、螺旋状暗文を持つ环など貴重な土器が出土している。8月20日に調査区全景の撮影を行い、8月27日に埋め戻しが終了した。

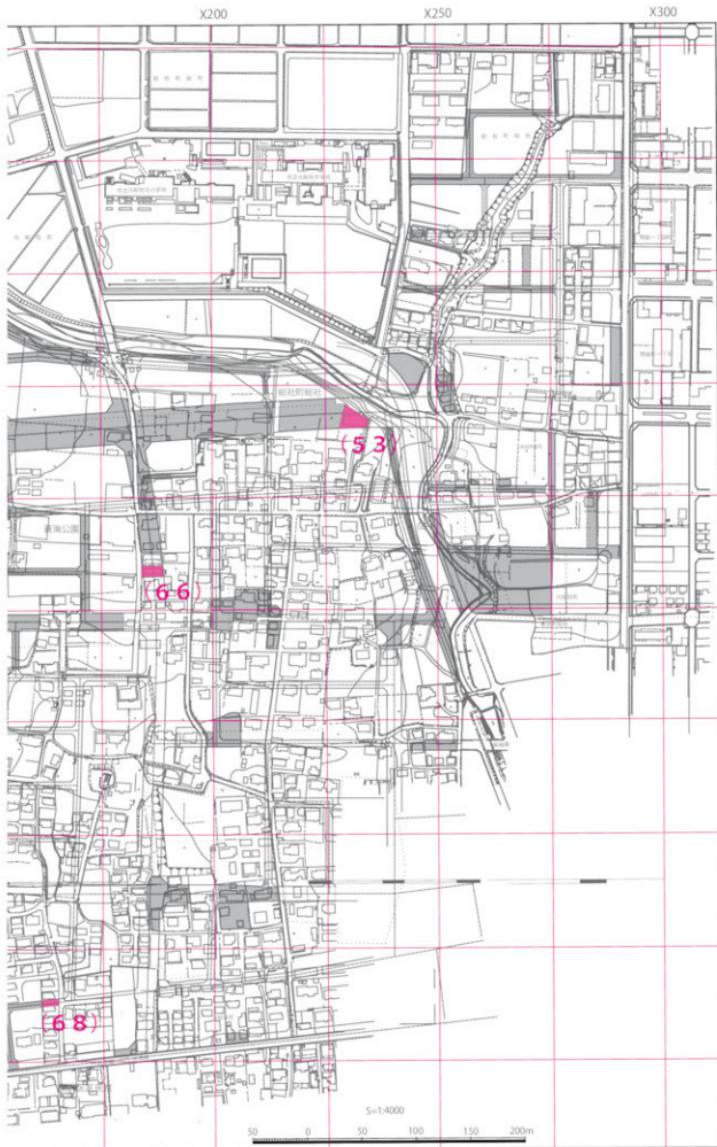
元総社蒼海遺跡群(52) … 7月10日、重機による表土掘削を行った。ジョレンによる遺構プラン確認作業を入念に行い、さらにサブトレーナーを設定し精査を行ったが、遺構の検出には至らなかった。これを受け、当該地は遺構なしと判断し調査を終了した。7月12日に調査区全景を撮影し、7月19日に埋め戻しが終了した。

- 元總社蒼海遺跡群 (53) … 7月22日から23日にかけて重機による表土掘削を行った。検出された遺構は重複が激しく明確な遺構プランの確認が困難であったため、サブトレレンチを複数設定し、遺構の新旧関係を確認しながら調査を進めた。検出された遺構は竪穴住居跡が18件、溝跡が2条、土坑跡が16基である。10月5日には近隣の住民を対象とした小規模ながらも現地説明会を開催するにいたった(参加者53名)。検出された遺構は10月30日に高所作業車を用いて調査区全景写真を撮影した。11月1日より埋め戻しを行い、5日に完了した。なお、9月10日～12日に桂萱中学校、10月24に前橋商業高校の生徒が職場体験学習の一環として本発掘調査に参加している。
- 元總社蒼海遺跡群 (54) … 8月28日に重機による表土掘削を行った。調査区の北側部分は後世のカクランを受けている。ジョレンによるプラン確認を試みたが、遺構の検出には至らなかった。これを受け当該地は遺構なしと判断し調査を終了した。9月3日に写真撮影等を実施したのち9月6日に埋め戻しを行った。
- 元總社蒼海遺跡群 (55) … 8月29日に重機による表土掘削を行った。足門前橋線沿いで宅地に囲まれた本遺跡では、排土処理の都合から切り返しによる表土掘削となった。検出された遺構は竪穴住居跡が1軒、溝跡が2条、土坑が1基である。9月4日に調査区全景を撮影したのち9月9日に埋め戻しを行い、9月13日に完了した。
- 元總社蒼海遺跡群 (66) … 10月1日に、重機による表土掘削を行った。調査区西側で南北に走る大溝が1条、東側で竪穴住居跡3軒、土坑1基、井戸跡2基である。10月10日に調査区全景写真を撮影し、10月11日に埋め戻しを行った。
- 元總社蒼海遺跡群 (67) … 排土処理の都合のため、遺構を東側と西側に分けて調査した。まず、東側調査区を10月9日に重機で掘削した。東西に走る溝跡が見つかり、北側に住居跡が複数確認された。検出された遺構は竪穴住居跡3軒、溝跡1条、土坑1基である。調査区は狭小であったが、比較的出土遺物が多い。10月22日に埋め戻した後、残りを10月28日に掘削した。確認された遺構は東側で見つかったものと同一の溝跡1条である。埋め戻しは11月7日に終了した。
- 元總社蒼海遺跡群 (68) … 本調査区内に排水管等の埋設物の恐れがあったため、10月31日より人力でトレレンチを掘削し、その有無確認を行った。その結果を踏まえ、11月5日に重機を投入し掘削を開始した。検出された遺構は竪穴住居跡が1軒、竪穴状遺構が1軒、土坑が8基である。11月13日に調査区全景写真を撮影後、11月27日に埋め戻しを行った。

現地での発掘調査は11月13日に全終了となり、その後、現場プレハブにおいて、遺物洗浄、注記作業等を行い、11月27日をもって現地での作業は終了となった。その後、文化財保護課庁舎での整理作業に着手した。出土遺物の接合・復元・実測、図面・写真等の整理、遺構計測及び報告書作成に伴う諸作業を行い、翌年3月7日までに全ての作業を終了した。



Fig. 3 グリッド設定図



元總社蒼海遺跡群 (51)



Fig. 4 元總社蒼海遺跡群 (51) 調査区全体図

元總社蒼海遺跡群 (52)

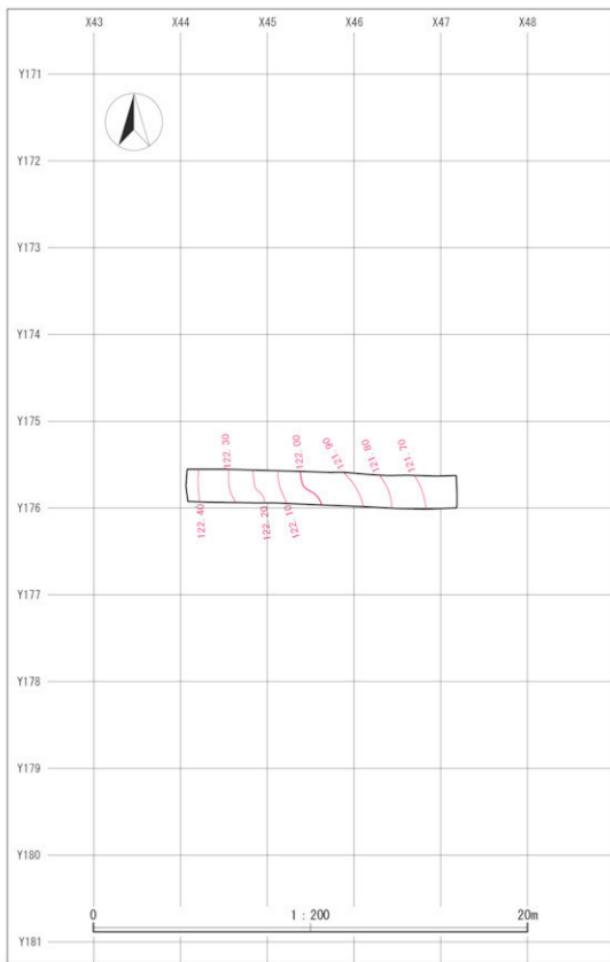


Fig. 5 元總社蒼海遺跡群 (52) 調査区全体図

元總社蒼海遺跡群 (53)



Fig. 6 元總社蒼海遺跡群 (53) 調査区全体図

元總社蒼海遺跡群 (54)

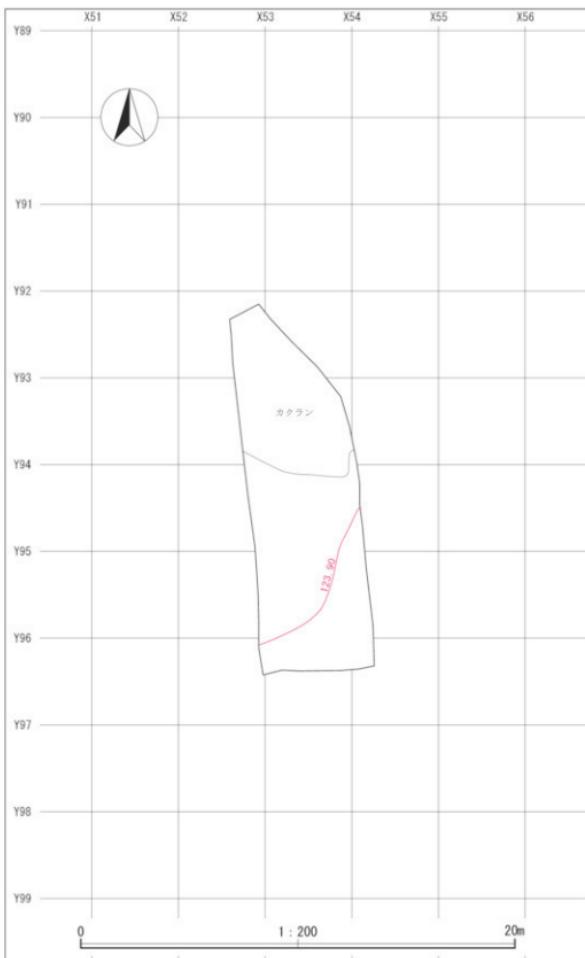


Fig. 7 元總社蒼海遺跡群 (54) 調査区全体図

元總社蒼海遺跡群 (55)

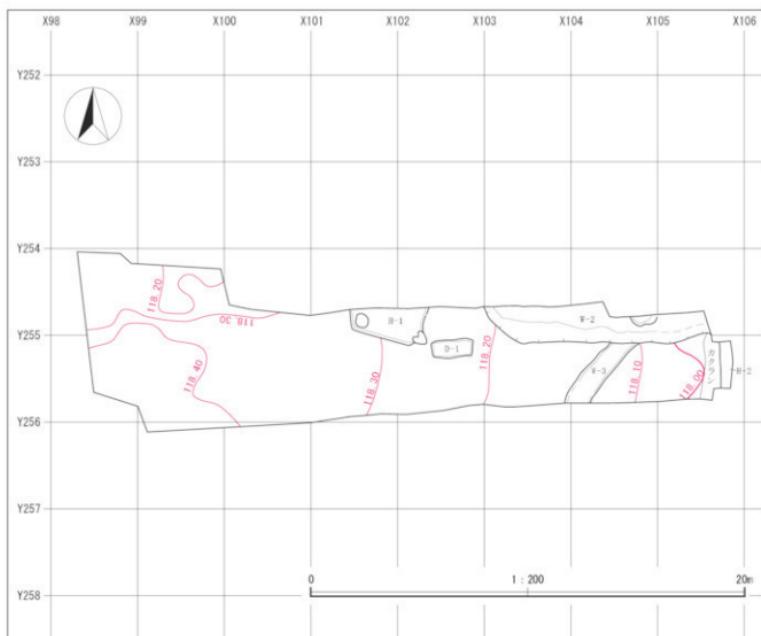


Fig. 8 元總社蒼海遺跡群 (55) 調査区全体図

元總社蒼海遺跡群 (66)

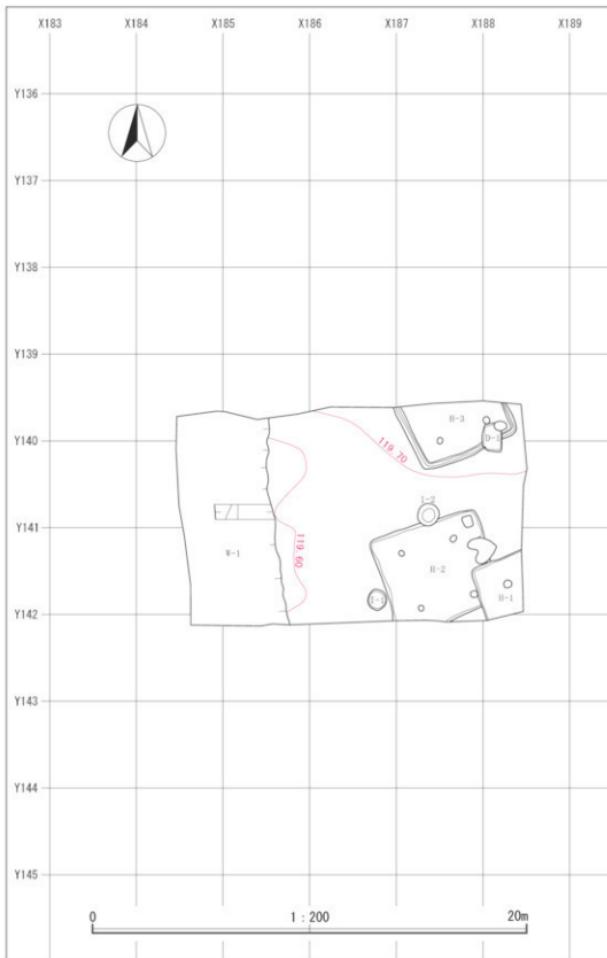


Fig. 9 元總社蒼海遺跡群 (66) 調査区全体図

元總社蒼海遺跡群 (67)

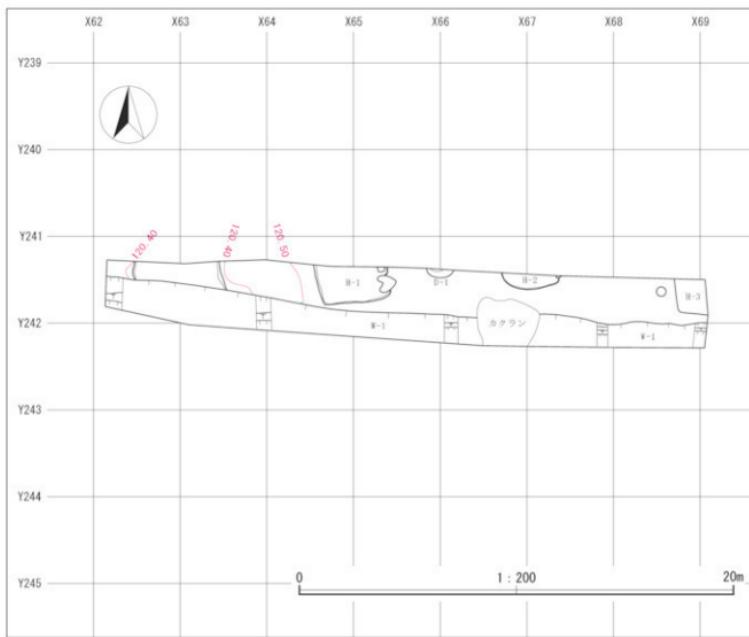


Fig. 10 元總社蒼海遺跡群 (67) 調査区全体図

元總社蒼海遺跡群 (68)



Fig. 11 元總社蒼海遺跡群 (68) 調査区全体図

IV 基 本 層 序

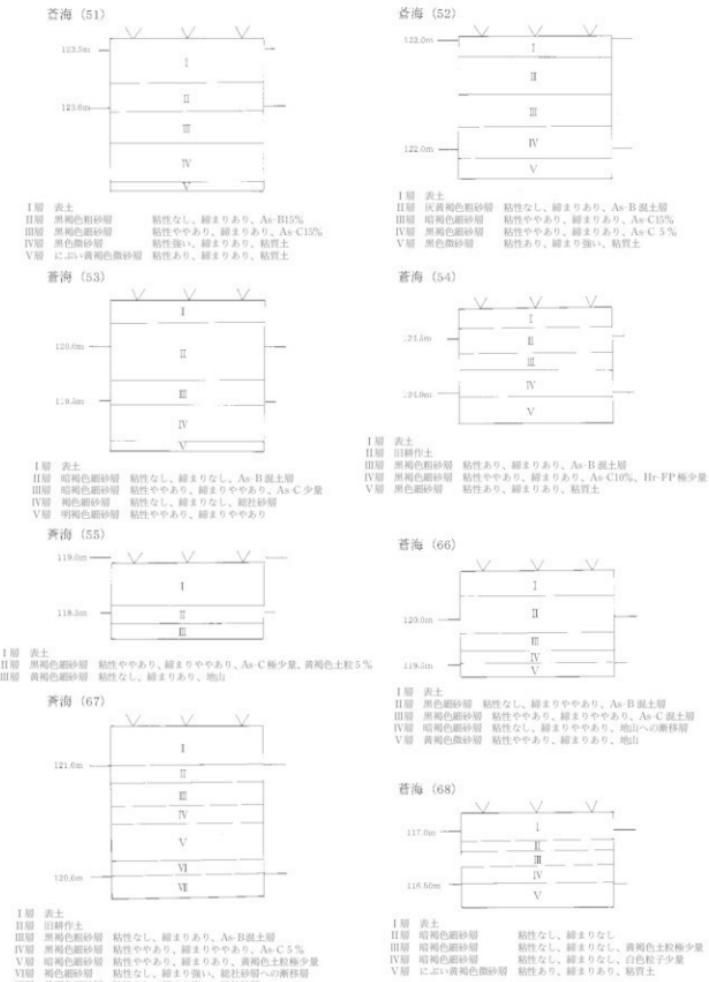


Fig. 12 基本層序

V 遺構と遺物

元総社蒼海遺跡群（51）

（1）竪穴住居跡

H-1号住居跡 (Fig.13・30 PL. 1・12)

位置 X72・73、Y109・110グリッド 主軸方向 N-60°-E 規模 短軸[2.90]m 長軸3.41m 壁現高45.5cm 面積 [9.04]m² 床面 平坦な床面。 龜 不明 重複 H-2と重複。本遺構が先行する。 出土遺物 土師器6点、石製品1点。遺物図版に2点を図示。 時期 覆土や出土遺物から7世紀前半と考えられる。

H-2号住居跡 (Fig.13・30 PL. 1・12)

位置 X72、Y108~110グリッド 主軸方向 N-6°-W 規模 短軸(2.79)m 長軸4.09m 壁現高58.0cm 面積 (11.46) m² 床面 堅敏で平坦な床面。北壁に沿って周溝を検出。 龜 東壁中央やや北寄りに位置するが、左袖の一部が残存するのみである。 重複 H-1と重複。本遺構が新しい。 出土遺物 土師器481点、須恵器54点、瓦4点、鉄製品1点。遺物図版に10点を図示。 時期 覆土や出土遺物から8世紀前半から中葉と考えられる。

H-3号住居跡 (Fig.13・30・31 PL. 1・2・12)

位置 X71・72、Y107・108グリッド 主軸方向 N-77°-E 規模 短軸(1.62)m 長軸2.65m 壁現高38.0cm 面積 (4.42) m² 床面 堅敏で平坦な床面。北壁及び東壁に沿って周溝を検出。 龜 東壁中央やや南寄りに位置する。主軸方向N-77°-E 全長94cm 最大幅75cm 焚口部幅27cm 重複 なし 出土遺物 土師器40点、須恵器3点、石製品1点、その他1点。遺物図版に2点を図示。 時期 覆土や出土遺物などから8世紀中葉と考えられる。

H-4号住居跡 (Fig.14・31 PL. 2)

位置 X71・72、Y106・107グリッド 主軸方向 N-90°-E 規模 短軸(1.10)m 長軸2.93m 壁現高41.0cm 面積 (2.86) m² 床面 平坦な床面。 龜 東壁の南寄りに位置する。煙道部が東に大きく延びる。主軸方向N-92°-E 全長1.58cm 最大幅75cm 焚口部幅36cm 重複 なし 出土遺物 土師器33点。遺物図版に1点を図示。 時期 覆土や出土遺物などから8世紀前半と考えられる。

H-5号住居跡 (Fig.14・31・37 PL. 2・12・17)

位置 X71・72、Y102・103グリッド 主軸方向 N-2°-W 規模 短軸(1.80)m 長軸(2.46)m 壁現高67.0cm 面積 [3.87] m² 床面 平坦な床面であるが、南側は堅敏さを失っている。西壁に沿って部分的に周溝を検出。 龜 不明 重複 H-6と重複。本遺構が新しい。 出土遺物 土師器97点、須恵器14点、繩文土器2点、石製品1点、鉄製品1点。遺物図版に3点を図示。 時期 覆土や出土遺物などから8世紀中葉と考えられる。

H-6号住居跡 (Fig.14 PL. 2)

位置 X71、Y102・103グリッド 主軸方向 N-2°-E 規模 短軸[0.65]m 長軸(1.39)m 壁現高57.0cm 面積 (0.90) m² 床面 平坦な床面。 龜 不明 重複 H-6と重複。本遺構が先行する。 出土遺物 なし

時期 不明

(2) グリッド等出土遺物

土師器34点、須恵器12点、瓦3点、灰釉1点、繩文土器1点。

元経社蒼海遺跡群 (52)

(1) グリッド等出土遺物

土師器43点、須恵器13点、瓦1点、繩文土器19点。

元経社蒼海遺跡群 (53)

(1) 積穴住居跡

H-1号住居跡 (Fig.15・31・37 PL.2・13・16・17)

位置 X228~230、Y107~108グリッド 主軸方向 N-29°-W 規模 短軸5.14m 長軸5.18m 壁現高14.0cm 面積 [26.08]m² 床面 堅緻で平坦な床面。東壁から南壁に沿って周溝を検出。柱穴 4基検出。P 1 (短軸0.42m、長軸0.43m、深さ0.93m)、P 2 (短軸0.48m、長軸0.49m、深さ0.81m)、P 3 (短軸0.44m、長軸0.48m、深さ0.84m)、P 4 (短軸0.52m、長軸0.53m、深さ0.86m) 貯藏穴 1基検出。P 5 (短軸0.60m 長軸0.73m 深さ0.78m) 電 北壁のほぼ中央に位置する。主軸方向N-45°-W 全長79cm 最大幅86cm 焚口部幅47cm 重複 H-4と重複。本遺構が先行する。出土遺物 電内部から支柱として使用されたと思われる壊3点が重なり合うように出土した。作りはやや粗雑でかなり厚手である。土師器338点、須恵器15点、石製品2点、繩文土器7点。遺物図版に8点を図示。時期 覆土や出土遺物などから6世紀後半と考えられる。

H-2号住居跡 (Fig.14・31 PL.4・13・17)

位置 X230・231、Y107~108グリッド 主軸方向 N-73°-E 規模 短軸3.11m 長軸4.61m 壁現高 20.0cm 面積 13.98m² 床面 平坦な床面。貯藏穴 1基検出。P 5 (短軸0.52m長軸0.63m深さ0.38m) 電 住居南東隅に位置する。主軸方向N-77°-E 全長104cm 最大幅100cm 焚口部幅36.0cm 重複 H-3と重複。本遺構が新しい。出土遺物 土師器374点、須恵器53点、鉄製品3点、石製品6点、瓦4点。遺物図版に4点を図示。時期 覆土や出土遺物などから7世紀後半から8世紀前半と考えられる。

H-3号住居跡 (Fig.16・37 PL.17)

位置 X230・231、Y106~107グリッド 主軸方向 N-27°-W 規模 短軸[2.80]m 長軸[2.88]m 壁現高 -cm 面積 [8.25]m² 床面 床面と思われる堅緻面のみ検出。電 不明 重複 H-2、H-4と重複。本遺構が最も古い。出土遺物 土師器22点、須恵器10点、鉄製品1点、灰釉陶器1点、瓦1点。時期 出土遺物や重複する遺構との関連から、7世紀以前の遺構と考えられる。

H-4号住居跡 (Fig.16・32・37 PL.4・13・17)

位置 X229・230、Y105~107グリッド 主軸方向 N-110°-E 規模 短軸4.21m 長軸5.02m 壁現高33.0cm 面積 21.12m² 床面 平坦な床面。電 東壁中央やや南寄りに位置する。電は2基検出された。北側のものが当初作られ、その後南側に新設されたものと思われる。その際、旧電の右袖部分は新電の左袖部分に再利用

されている痕跡が窺える。(旧) 主軸方向N-127°-E 全長81cm 最大幅92cm 焚口部幅40cm (新) 主軸方向N-108°-E 全長110cm 最大幅96cm 焚口部幅58cm 重複 H-3、H-12と重複。本遺構が最も新しい。 出土遺物 土師器339点、須恵器67点、鉄製品2点、灰釉陶器5点、石製品1点、瓦4点、軽文土器1点。遺物図版に3点を図示。 時期 覆土や出土遺物などから10世紀中葉から後半と考えられる。

H-5号住居跡 欠番

H-6号住居跡 欠番

H-7号住居跡 (Fig.16・32・37 PL. 4・17)

位置 X228・229、Y105・106グリッド 主軸方向 N-118°-E 規模 短軸2.83m 長軸(3.49)m 壁現高32.0cm 面積 (10.17)m² 床面 平坦な床面。 窓 住居南東隅に位置する。左袖部周辺には竈の構築剤として使用されたと思われる石材が出土した。主軸方向N-110°-E 全長119cm 最大幅142cm 焚口部幅62cm 重複 H-12、H-28と重複。新旧関係は、H-12→本遺構→H-28。 出土遺物 土師器166点、須恵器37点、灰釉陶器2点。遺物図版に1点を図示。 時期 覆土や出土遺物などから10世紀中葉と考えられる。

H-8号住居跡 (Fig.17・32 PL. 4・13)

位置 X228・229、Y104・105グリッド 主軸方向 N-110°-E 規模 短軸[3.13]m 長軸[3.16]m 壁現高20.0cm 面積 [10.15]m² 床面 平坦な床面。 窓 東壁南寄りに位置する。主軸方向N-113°-E 全長126cm 最大幅93cm 焚口部幅37cm 重複 H-17、H-19、H-23と重複。本遺構が最も古い。 出土遺物 土師器65点、須恵器19点、鉄製品4点、灰釉陶器1点。遺物図版に2点を図示。 時期 覆土や出土遺物などから10世紀前半と考えられる。

H-9号住居跡 (Fig.17)

位置 X228、Y106グリッド 面積 0.19m² 窓 窓部分のみの検出。主軸方向N-90°-E 全長79cm 最大幅43cm 焚口部幅25cm 重複 H-12と重複。本遺構が新しい。 出土遺物 土師器19点、須恵器6点、瓦4点。 時期 不明

H-10号住居跡 欠番

H-11号住居跡 (Fig.17・32 PL. 4・13・14)

位置 X227~229、Y106・107グリッド 主軸方向 N-26°-W 規模 短軸(2.60)m 長軸3.55m 壁現高25.5cm 面積 9.49m² 床面 堅緻で平坦な床面、周溝が巡る。 柱穴 4基検出。P 1 (短軸0.39m、長軸0.40m、深さ0.58m)、P 2 (短軸0.29m、長軸0.30m、深さ0.46m)、P 3 (短軸0.25m、長軸0.30m、深さ0.38m)、P 4 (短軸0.19m、長軸0.20m、深さ0.25m) 貯蔵穴 1基検出。P 5 (短軸0.63m、長軸0.64m、深さ0.67m) 窓 不明 重複 H-12と重複。本遺構が先行する。 出土遺物 土師器43点、須恵器1点。遺物図版に3点を図示。 時期 覆土や出土遺物などから8世紀中葉と考えられる。

H-12号住居跡 (Fig.18・32・33 PL. 5・13・14)

位置 X228・229、Y105~107グリッド 主軸方向 N-60°-E 規模 短軸4.69m 長軸[5.01]m 壁現高

46.0cm 面積 [23.22]m² 床面 堅緻で平坦な床面。 柱穴 4基検出。P 1(短軸0.61m、長軸0.64m、深さ0.63m)、P 2(短軸0.52m、長軸0.57m、深さ0.70m)、P 3(短軸0.52m、長軸0.53m、深さ0.50m)、P 4(短軸0.57m、長軸0.60m、深さ0.64m)。貯藏窓 1基検出。P 5(短軸0.42m、長軸0.43m、深さ0.67m)。竈 東壁中央やや南寄りに位置する。重複するH-7号住居跡により竈の大半は壊されており、煙道の一部が残存する。主軸方向N-68°-E 全長89cm 最大幅69cm 焚口部幅41cm 重複 H-4、H-7、H-11と重複。新旧関係は、H-11より新しく、H-4、H-7より古い。出土遺物 土師器425点、須恵器28点、灰釉陶器1点、石製品3点、繩文土器3点。遺物図版に3点を図示。時期 覆土や出土遺物などから8世紀中葉から後半と考えられる。

H-13号住居跡 欠番

H-14号住居跡 欠番

H-15号住居跡 欠番

H-16号住居跡 (Fig.19)

位置 X227、Y105グリッド 面積 (0.12)m² 竈 竈部分のみの検出。主軸方向N-90°-E 全長40cm 最大幅42cm 焚口部幅23cm 重複 H-17と重複。本造構が新しい。出土遺物 なし 時期 不明

H-17号住居跡 (Fig.19・33・37 PL. 5・17)

位置 X227・228、Y104・105グリッド 主軸方向 N-61°-E 規模 短軸[2.79]m 長軸3.30m 壁現高7.5cm 面積 [9.32]m² 床面 平坦な床面。竈 東壁南寄りに位置する。構築材の凝灰岩が両袖部に配置され、煙道部が東へ大きく張り出す。主軸方向N-59°-E 全長178cm 最大幅57cm 焚口部幅32cm 重複 H-8、H-23と重複。本造構が最も新しい。出土遺物 土師器16点、須恵器19点、灰釉陶器1点、鉄製品1点、瓦4点。遺物図版に1点を図示。時期 覆土や出土遺物などから10世紀後半と考えられる。

H-18号住居跡 (Fig.19)

位置 X227・228、Y104・105グリッド 主軸方向 N-88°-E 規模 短軸[1.16]m 長軸[1.55]m 壁現高19.0cm 面積 (1.93)m² 床面 平坦な床面であるが、攪乱により住居北側半分は壊されている。竈 住居南東隅に位置する。主軸方向N-84°-E 全長100cm 最大幅90cm 焚口部幅53cm 重複 H-19と重複。本造構が新しい。出土遺物 土師器31点、須恵器3点、鉄製品1点。時期 覆土や出土遺物などから10世紀代と推察される。

H-19号住居跡 (Fig.19・33 PL. 6・14)

位置 X227・228、Y104・105グリッド 主軸方向 N-64°-E 規模 短軸[2.99]m 長軸[3.70]m 壁現高40.0cm 面積 [11.14]m² 床面 平坦な床面。竈 東壁南寄りに位置する。構築材と思われる凝灰岩が竈焚口前に出土した。主軸方向N-60°-E 全長122cm 最大幅86cm 焚口部幅39cm 重複 H-17、H-18と重複。本造構が最も古い。出土遺物 土師器109点、須恵器4点、繩文土器2点。遺物図版に1点を図示。時期 覆土や出土遺物などから7世紀後半と考えられる。

H-20号住居跡 欠番

H-21号住居跡 (Fig.20・33 PL. 6)

位置 X229・230、Y104グリッド 主軸方向 N-115°-E 規模 短軸[3.04]m 長軸3.05m 壁現高16.5cm
面積 [8.99]m² 床面 平坦な床面。 窓 東壁南寄りに位置する。主軸方向N-112°-E 全長81cm 最大幅72cm 焚口部幅38cm 重複 H-23、H-28と重複。本遺構が最も新しい。 出土遺物 土師器30点、須恵器19点、瓦3点。遺物図版に1点を図示。 時期 覆土や出土遺物などから10世紀中葉と考えられる。

H-22号住居跡 (Fig.20・33 PL. 6・13・14)

位置 X230・231、Y104・105グリッド 主軸方向 N-116°-E 規模 短軸(1.99)m 長軸[3.00]m 壁現高25.5cm 面積 [6.45]m² 床面 平坦な床面。 窓 住居南東隅に位置する。主軸方向N-112°-E 全長60cm 最大幅80cm 焚口部幅37cm 重複 H-28と重複。本遺構が先行すると推察される。 出土遺物 土師器116点、須恵器43点、鉄製品1点、石製品1点、瓦1点、繩文土器3点。遺物図版に2点を図示。 時期 覆土や出土遺物などから11世紀前半と考えられる。

H-23号住居跡 (Fig.20・33 PL. 6)

位置 X228・229、Y104・105グリッド 主軸方向 N-100°-E 規模 短軸[2.89]m 長軸[3.75]m 壁現高35.0cm 面積 [11.36]m² 床面 平坦な床面。 窓 住居南東隅に位置する。主軸方向N-107°-E 全長135cm 最大幅85cm 焚口部幅53cm 重複 H-8、H-21と重複。新旧関係は、H-8→本遺構→H21。 出土遺物 土師器106点、須恵器39点、灰釉陶器3点、綠釉陶器1点、瓦1点、繩文土器1点。遺物図版に4点を図示。 時期 覆土や出土遺物などから10世紀中葉と考えられる。

H-24号住居跡 (Fig.21)

位置 X232・233、Y106・107グリッド 主軸方向 N-46°-E 規模 短軸(1.29)m 長軸(2.92)m 壁現高39.0cm 面積 (2.68)m² 床面 床面が不明瞭。 窓 不明 重複 なし 出土遺物 なし 時期 不明

H-25号住居跡 欠番

H-26号住居跡 欠番

H-27号住居跡 欠番

H-28号住居跡 (Fig.21・33 PL. 6・14)

位置 X229・230、Y104・105グリッド 主軸方向 N-117°-E 規模 短軸(3.32)m 長軸(4.13)m 壁現高34.0cm 面積 [14.40]m² 床面 堅緻で平坦な床面。 窓 東壁南寄りに位置する。 重複 H-7、H-21、H-22と重複。新旧関係では、H-7及びH-22より新しくH-21に対しては先行する。 出土遺物 土師器100点、須恵器48点、灰釉陶器3点、鉄製品1点、瓦1点、繩文土器1点。遺物図版に4点を図示。 時期 覆土や出土遺物などから10世紀中葉から後半と考えられる。

(2) 溝跡

W—1号溝跡 (Fig.22 PL.6)

位置 X231・232、Y105～108グリッド 主軸方向 N—12°～W 規模 延長(13.12)m 最大幅 上幅(1.22)m 下幅(0.61)m 深さ(0.31)m 形状等 U字形 重複 なし 出土遺物 土師器25点、須恵器2点。 時期 覆土から As-B 降下後に埋まったものと推察される。

W—2号溝跡 (Fig.23・37 PL.16)

位置 X233、Y107・108グリッド 主軸方向 N—12°～E 規模 延長(3.96)m 最大幅 上幅(1.42)m 下幅(1.10)m 深さ(0.34)m 形状等 U字形 重複 D—8と重複。本遺構が先行する。 出土遺物 土師器36点、須恵器5点、鉄製品1点、石製品1点、瓦1点。 時期 覆土から As-B 降下後に埋まったものと推察される。

(3) 土 坑

D—1号土坑 (Fig.21 PL.6)

位置 X231・232、Y108グリッド 形状 円形 規模 長軸1.20m 短軸0.80m 深さ(0.19)m 出土遺物 なし

D—2号土坑 (Fig.21 PL.7)

位置 X232、Y107グリッド 形状 円形 規模 長軸1.27m 短軸1.24m 深さ(0.29)m 出土遺物 土師器6点、須恵器2点。

D—3号土坑 (Fig.21)

位置 X230、Y106グリッド 形状 円形 規模 長軸0.82m 短軸0.79m 深さ(0.17)m 出土遺物 土師器9点、須恵器5点。

D—4号土坑 (Fig.21)

位置 X231・232、Y106グリッド 形状 円形 規模 長軸0.80m 短軸0.72m 深さ(0.18)m 出土遺物 土師器1点、須恵器1点。

D—5号土坑 (Fig.22)

位置 X233、Y108グリッド 形状 円形 規模 長軸1.31m 短軸1.25m 深さ(0.23)m 出土遺物 土師器1点、須恵器2点。

D—6号土坑 (Fig.22)

位置 X230・231、Y107グリッド 形状 楕円形 規模 長軸1.39m 短軸0.94m 深さ(0.26)m 出土遺物 土師器4点、須恵器4点、灰釉陶器1点、瓦1点。

D—7号土坑 (Fig.22・34・36 PL.14・17)

位置 X229・230、Y105グリッド 形状 長方形 規模 長軸1.11m 短軸0.82m 深さ0.70m 出土遺物 古銭(寛永通宝)、陶器1点。遺物図版に1点を図示。 時期 出土遺物などから17世紀後半から18世紀前半の墓と考えられる。

D—8号土坑 (Fig.22 PL.7)

位置 X233、Y107グリッド 形状 長方形 規模 長軸1.31m 短軸0.72m 深さ0.43m 出土遺物 土坑の四隅及び中央に石材が配置され、その直下に焼土粒や炭化物が多く残存する。遺物の出土は皆無である。時期出土状況などから中世の火葬跡と考えられる。

D—9号土坑 (Fig.22)

位置 X228、Y105グリッド 形状 楕円形 規模 長軸0.92m 短軸0.78m 深さ(0.30)m 出土遺物 なし

D—10号土坑 (Fig.22)

位置 X227・228、Y105・106グリッド 形状 楕円形 規模 長軸0.78m 短軸0.68m 深さ(0.21)m 出土遺物 なし

D—11号土坑 (Fig.22)

位置 X227、Y106グリッド 形状 円形 規模 長軸0.66m 短軸0.62m 深さ(0.28)m 出土遺物 なし

D—12号土坑 (Fig.22)

位置 X228、Y105グリッド 形状 円形 規模 長軸0.69m 短軸0.66m 深さ0.23m 出土遺物 なし

D—13号土坑 (Fig.22・34 PL.7・14)

位置 X230、Y105グリッド 形状 楕円形 規模 長軸0.80m 短軸0.59m 深さ(0.25)m 出土遺物 須恵器6点、灰釉陶器1点。遺物図版に2点を図示。

D—14号土坑 (Fig.22・34)

位置 X230、Y105グリッド 形状 楕円形 規模 長軸0.92m 短軸0.78m 深さ(0.30)m 出土遺物 土師器9点、須恵器4点。遺物図版に1点を図示。

D—15号土坑 (Fig.22)

位置 X230、Y105グリッド 形状 円形 規模 長軸0.52m 短軸0.50m 深さ(0.28)m 出土遺物 土師器4点、須恵器1点。

D—16号土坑 (Fig.22)

位置 X227、Y104・105グリッド 形状 不整形 規模 長軸(2.10)m 短軸(0.72)m 深さ(0.57)m 出土遺物 なし

(4) グリッド等出土物

土師器578点、須恵器158点、瓦8点、繩文土器6点、灰釉陶器11点、石製品3点、鉄製品4点、古銭1点、中世遺物2点。

元総社蒼海遺跡群（54）

（1）グリッド等出土遺物

土師器 7 点、須恵器 2 点、縄文土器 1 点、石製品 2 点。

元総社蒼海遺跡群（55）

（1）竪穴住居跡

H-1号住居跡 (Fig.23)

位置 X101・102、Y251・252グリッド 主軸方向 N-91°-E 規模 短軸1.50m 長軸[2.27]m 壁現高55.0cm 面積 [3.24]m² 床面 堅緻で平坦な床面は部分的に検出。柱穴 1基検出。P 2(短軸1.04m、長軸1.38m、深さ0.79m)。竪 住居南東隅に位置する。重複 なし 出土遺物 土師器 2 点、須恵器 4 点。時期 出土遺物などから 8 世紀代と推察される。

H-2号住居跡 (Fig.23)

位置 X105、Y255グリッド 主軸方向 N-1°-E 規模 短軸(0.57)m 長軸(2.15)m 壁現高—cm 面積 (1.15)m² 床面 堅緻で平坦な床面のみ検出。住居西側は攪乱により壊されている。竪 不明 重複 なし 出土遺物 土師器 5 点、須恵器 4 点。時期 不明

（2）溝 跡

W-1号溝跡 欠番

W-2号溝跡 (Fig.23)

位置 X102～105、Y254・255グリッド 主軸方向 N-92°-E 規模 延長(10.33)m 最大幅 上幅(1.90)m 下幅(1.18)m 深さ(0.25)m 形状等 細やかなV字形 重複 W-3と重複。本遺構が新しい。出土遺物 土師器13点、須恵器3点。時期 覆土から As-C 降下後に掘削され、As-B 降下前には埋まつたものと推察される。

W-3号溝跡 (Fig.23 PL.7)

位置 X103・104、Y255グリッド 主軸方向 N-39°-E 規模 延長(3.58)m 最大幅 上幅(1.12)m 下幅(0.82)m 深さ(0.16)m 形状等 U字形 重複 W-2と重複。本遺構が先行する。出土遺物 なし 時期 覆土から As-C 降下後に掘削され、As-B 降下前には埋まつたものと推察される。

（3）土 坑

D-1号土坑 (Fig.23)

位置 X102、Y251・252グリッド 形状 楕円形 規模 長軸1.89m 短軸0.81m 深さ(0.13)m 出土遺物 なし

（4）グリッド等出土遺物

土師器 9 点、須恵器 2 点、縄文土器 1 点、石製品 2 点。

元総社蒼海遺跡群（66）

（1）竪穴住居跡

H-1号住居跡 (Fig.24)

位置 X187・188、Y141・142グリッド 主軸方向 N-9°-W 規模 短軸(2.02)m 長軸(2.62)m 壁現高15.5cm 面積 (5.42)m² 床面 堅緻で平坦な床面。柱穴 1基検出。P 1 (短軸0.35m、長軸0.38m、深さ0.65m)。竈 不明 重複 H-2と重複。本遺構が新しい。出土遺物 なし 時期 不明

H-2号住居跡 (Fig.24 PL. 8)

位置 X186～188、Y140～142グリッド 主軸方向 N-80°-E 規模 短軸4.76m 長軸5.12m 壁現高21.5cm 面積 (22.68)m² 床面 堅緻で平坦な床面。柱穴 4基検出。P 1 (短軸0.24m、長軸0.26m、深さ0.57m)、P 2 (短軸0.23m、長軸0.27m、深さ0.67m)、P 3 (短軸0.31m、長軸0.34m、深さ0.68m)、P 4 (短軸0.26m、長軸0.33m、深さ0.43m)。貯蔵穴 1基検出。P 5 (短軸0.43m、長軸0.52m、深さ0.75m)。竈 東壁中央やや北寄りに位置する。主軸方向N-72°-E 全長114cm 最大幅129cm 焚口部幅57cm 重複 H-1と重複。本遺構が先行する。出土遺物 土師器11点 時期 覆土や出土遺物などから7世紀代と推察される。

H-3号住居跡 (Fig.25・34 PL. 9・14)

位置 X186～188、Y139・140グリッド 主軸方向 N-77°-E 規模 短軸(2.68)m 長軸4.96m 壁現高43.0cm 面積 (12.10)m² 床面 堅緻で平坦な床面。壁に沿って周溝が巡る。柱穴 2基検出。P 2 (短軸0.24m、長軸0.30m、深さ0.71m)、P 3 (短軸0.24m、長軸0.30m、深さ0.71m)。貯蔵穴 1基検出。P 5 (短軸0.43m、長軸0.52m、深さ0.75m)。竈 不明 重複 D-1と重複。本遺構が先行する。出土遺物 土師器91点、須恵器1点、石製品1点。遺物図版に3点を図示。時期 覆土や出土遺物などから7世紀前半から中葉と考えられる。

（2）溝跡

W-1号溝跡 (Fig.26・34 PL. 8・14)

位置 X185、Y139～142グリッド 主軸方向 N-4°-W 規模 延長(8.39)m 最大幅上幅(4.40)m 下幅(1.08)m 深さ(3.12)m 形状等 V字形 重複 なし 出土遺物 土師器5点、須恵器19点、瓦4点、中世遺物5点。遺物図版に4点を図示。時期 覆土や出土遺物などから蒼海城関連の堀と考えられる。

（3）土坑

D-1号土坑 (Fig.26)

位置 X187・188、Y139・140グリッド 形状 長方形 規模 長軸1.30m 短軸0.90m 深さ0.37m 出土遺物 土師器3点、須恵器3点。

（4）井戸跡

I-1号井戸跡 (Fig.26・37 PL. 9・17)

位置 X186、Y141グリッド 形状 円形 規模 長軸0.98m 短軸0.86m 深さ(0.91)m 出土遺物 土師器2点、須恵器4点、石製品1点。

I-2号井戸跡 (Fig.26)

位置 X187、Y140グリッド 形状 円形 規模 長軸1.03m 短軸1.00m 深さ0.14m 出土遺物 なし

(5) グリッド等出土遺物

土師器49点、須恵器14点、瓦9点、中世遺物1点

元経社蒼海遺跡群 (67)

(1) 穴住居跡

H-1号住居跡 (Fig.27・35 PL.10・15)

位置 X64・65、Y241グリッド 主軸方向 N-87°-E 規模 短軸(1.67)m 長軸3.36m 壁現高21.5cm 面積 (5.55)m² 床面 堅敏で平坦な床面。竈 住居南東隅に位置する。天井部と右袖部に使用されていた構築材の凝灰岩は残存状態が良好である。左袖部については、長胴壺を再利用し構築材としていた。主軸方向N-88°-E 全長73cm 最大幅83cm 焚口部幅34cm 重複 なし 出土遺物 土師器277点、須恵器11点。遺物図版に6点を図示。時期 覆土や出土遺物などから6世紀末から7世紀初頭と考えられる。

H-2号住居跡 (Fig.27・36 PL.11)

位置 X66・67、Y241グリッド 主軸方向 N-95°-E 規模 短軸(0.71)m 長軸(2.48)m 壁現高10.5cm 面積 (1.47)m² 床面 平坦な床面。竈 竈の大半は調査区外であったが、右袖部の構築材として使用された長胴壺が検出された。東壁の南寄りに位置していたと推察される。また竈煙道部が東方向へ大きく延びることが土層断面から推察される。全長(146)cm 重複 なし 出土遺物 土師器37点、須恵器4点。遺物図版に2点を図示。時期 覆土や出土遺物などから7世紀中葉と考えられる。

H-3号住居跡 (Fig.28・36)

位置 X68・69、Y241グリッド 主軸方向 N-84°-E 規模 短軸[1.36]m 長軸[1.84]m 壁現高1cm 面積 [2.46]m² 床面 堅敏な床面のみ検出。竈 不明 重複 W-1と重複。本道構が先行する。出土遺物 土師器22点、須恵器3点。遺物図版に1点を図示。時期 覆土や出土遺物などから7世紀中葉と考えられる。

(2) 溝 跡

W-1号溝跡 (Fig.28・36 PL.9・10)

位置 X62・69、Y241・242グリッド 主軸方向 N-85°-W 規模 延長(28.30)m 最大幅 上幅(2.08)m 下幅(0.34)m 深さ(1.14)m 形状等 V字形 重複 H-3と重複。本道構が新しい。出土遺物 土師器17点、須恵器7点、瓦1点、石製品2点。遺物図版に1点を図示。時期 覆土などから中世の遺構と考えられる。

(3) 土 坑

D-1号土坑 (Fig.28)

位置 X65・66、Y241グリッド 形状 楕円形 規模 長軸(1.25)m 短軸(0.40)m 深さ(0.36)m 出土遺物 土師器12点

元総社蒼海遺跡群（68）

（1）竪穴住居跡

H-1号住居跡 (Fig.28・36 PL.11・14)

位置 X159、Y236・237グリッド 主軸方向 N-86°-E 規模 短軸(1.92)m 長軸(2.29)m 壁現高12.0cm
面積 (4.38)m² 床面 平坦な床面。 隅 東壁やや中央寄りに位置する。主軸方向N-76°-E 全長98cm 最大
幅83cm 焚口部幅52cm 重複 D-5と重複。本遺構が先行する。 出土遺物 当初グリッド遺物としたが本遺構
に関連すると思われる土師器3点を図示。 時期 覆土や出土遺物などから8世紀前半から中葉と考えられる。

（2）竪穴状遺構

T-1号竪穴状遺構 (Fig.29・36 PL.11)

位置 X160・161、Y236・237グリッド 主軸方向 N-9°-W 規模 短軸(1.95)m 長軸(3.56)m 壁現高
40.0cm 面積 (6.39)m² 床面 平坦な床面。 重複 なし 出土遺物 土師器24点、須恵器14点、瓦5点、灰
釉陶器4点、鉄製品1点。遺物図版に1点を図示。 時期 覆土からAs-B降下以後の遺構と考えられる。

（3）土坑

D-1号土坑 (Fig.29)

位置 X160、Y237・238グリッド 形状 方形 規模 長軸(0.94)m 短軸(0.64)m 深さ(0.37)m 出土遺物
古錢（洪武通宝）

D-2号土坑 (Fig.29 PL.11)

位置 X161・162、Y237グリッド 形状 楕円形 規模 長軸(1.32)m 短軸(0.77)m 深さ(0.60)m 出土遺物
土師器4点、須恵器3点。

D-3号土坑 (Fig.29)

位置 X159、Y238グリッド 形状 長方形 規模 長軸(2.09)m 短軸(0.37)m 深さ(0.33)m 出土遺物
なし

D-4号土坑 (Fig.29)

位置 X161・162、Y237グリッド 形状 円形 規模 長軸(0.98)m 短軸(0.93)m 深さ(0.37)m 出土遺物
なし

D-5号土坑 (Fig.29)

位置 X159、Y237グリッド 形状 楕円形 規模 長軸(0.72)m 短軸(0.18)m 深さ(0.32)m 出土遺物
なし

D-6号土坑 欠番

D-7号土坑 (Fig.29)

位置 X159、Y237グリッド 形状 不整形 規模 長軸(0.99)m 短軸(0.73)m 深さ(0.63)m 出土遺物

なし

D—8号土坑

位置 X159、Y237グリッド 形状 楕円形 規模 長軸(0.68)m 短軸(0.60)m 深さ(0.17)m 出土遺物なし

D—9号土坑 (Fig.29)

位置 X159、Y237グリッド 形状 楕円形 規模 長軸(0.65)m 短軸(0.50)m 深さ(0.43)m 出土遺物なし

(4) グリッド等出土遺物

土師器51点、須恵器24点、瓦1点、灰釉陶器4点。そのうち、2点を図示。

Tab. 2 深穴住居跡・深穴状遺構計測一覧表

元経社蒼海遺跡群 (51)

遺構名	位置	規模 (m)			面積 (m ²)	主軸方向	竪		周溝	主な出土遺物		
		短軸	長軸	壁厚高 (cm)			位置	土師器		須恵器	その他	
H-1	X72・73 Y109・110	[2.90]	3.41	45.5	[9.04]	N-60°-E			○	甕		
H-2	X72 Y108~110	(2.79)	4.09	58.0	[11.46]	N-6°-W	東壁中央やや北寄り	○	坏、高坏	高台輪、盤	螺旋状弦文を有する坏	
H-3	X71・72 Y107・108	(1.62)	2.65	38.0	[4.42]	N-77°-E	東壁中央やや南寄り		○	坏		
H-4	X71・72 Y106・107	(1.10)	2.93	41.0	[2.86]	N-92°-E	東壁南寄り		○	坏		
H-5	X71・72 Y102・103	(1.80)	2.46	67.0	[3.87]	N-2°-W	—	○	坏	坏	蓋、鉄器	
H-6	X71 Y102・103	[0.65]	(1.39)	57.0	[0.90]	N-2°-E	—					

元経社蒼海遺跡群 (53)

遺構名	位置	規模 (m)			面積 (m ²)	主軸方向	竪		周溝	主な出土遺物		
		短軸	長軸	壁厚高 (cm)			位置	土師器		須恵器	その他	
H-1	X228・230 Y107・108	5.14	5.18	14.0	[26.08]	N-29°-W	北壁中央	○	坏、甕		口下、有孔石版、	
H-2	X230・231 Y107・108	3.11	4.61	20.0	13.98	N-73°-E	東壁南東隅		坏、甕		鉄釘	
H-3	X230・231 Y106・107	[2.80]	[2.88]	—	[8.25]	N-27°-W					鉄釘	
H-4	X229・230 Y105~107	4.21	5.02	33.0	21.12	N-110°-E	東壁中央やや南寄り2箇所		坏		土器、羽墨、鐵石、	
H-5	欠番										鉄脚把付鉗	
H-6	欠番											
H-7	X228・229 Y105・106	2.83	[3.49]	32.0	(10.17)	N-118°-E	南東隅		○	坏、甕		
H-8	X228・229 Y104・105	[3.13]	[3.16]	20.0	[10.15]	N-110°-E	東壁南寄り				羽墨	
H-9	X228 Y106					N-90°-E	カマドのみ					
H-10	欠番											
H-11	X227~229 Y106・107	(2.60)	3.55	25.5	9.49	N-26°-W	—	○	坏、甕			
H-12	X228・229 Y105~107	4.69	[5.01]	46.0	[23.22]	N-60°-E	東壁中央やや南寄り		小甕、椀	甕		
H-13	欠番											
H-14	欠番											
H-15	欠番											
H-16	X227 Y105					N-90°-E	カマドのみ					
H-17	X227・228 Y104・105	[2.79]	3.30	7.5	[9.32]	N-61°-E	東壁南寄り				羽墨、環状鉄製品	
H-18	X227・228 Y104・105	(1.16)	[1.55]	19.0	(1.93)	N-88°-E	東壁南東隅					
H-19	X227・228 Y104・105	[2.99]	[3.70]	40.0	[11.14]	N-64°-E	東壁南寄り		坏			
H-20	欠番											
H-21	X229・230 Y104	[3.04]	3.05	16.5	[8.99]	N-115°-E	東壁南寄り		坏			

遺構名	位置	規模 (m)			面積 (m ²)	主軸方向	竪 位 置	主な出土遺物		
		短軸	長軸	壁厚高 (cm)				土師器	須恵器	その他
H-22	X230・231 Y104・105	(1.99)	[3.00]	25.5	[6.45]	N-116°-E	東壁南東隅			カワラケ
H-23	X228・229 Y104・105	[2.89]	[3.75]	35.0	[11.36]	N-100°-E	東壁南東隅	环		灰陶 高台輪 縁輪
H-24	X232・233 Y106・107	(1.29)	(2.92)	39.0	(2.68)	N-46°-E	—			
H-25	矢番									
H-26	矢番									
H-27	矢番									
H-28	X229・230 Y104・105	(3.32)	(4.13)	34.0	[14.40]	N-117°-E	東壁南寄り	甕		羽垂

元続社蒼海遺跡群 (55)

遺構名	位置	規模 (m)			面積 (m ²)	主軸方向	竪 位 置	主な出土遺物		
		短軸	長軸	壁厚高 (cm)				土師器	須恵器	その他
H-1	X101・102 Y251・252	1.50	[2.27]	55.0	[3.24]	N-91°-E	東壁南東隅			
H-2	X105 Y255	(0.57)	(2.15)	—	(1.15)	N-1°-E	—			

元続社蒼海遺跡群 (56)

遺構名	位置	規模 (m)			面積 (m ²)	主軸方向	竪 位 置	主な出土遺物		
		短軸	長軸	壁厚高 (cm)				土師器	須恵器	その他
H-1	X187・188 Y141・142	(2.02)	(2.62)	15.5	(5.42)	N-9°-W	—			
H-2	X186～188 Y140～142	4.76	5.12	21.5	(22.68)	N-80°-E	東壁中央やや 北寄り			
H-3	X186～188 Y139・140	(2.68)	4.96	43.0	(12.10)	N-77°-E	—	环、甕 高环		

元続社蒼海遺跡群 (57)

遺構名	位置	規模 (m)			面積 (m ²)	主軸方向	竪 位 置	主な出土遺物		
		短軸	長軸	壁厚高 (cm)				土師器	須恵器	その他
H-1	X64・65 Y241	(1.67)	3.36	21.5	(5.55)	N-87°-E	東壁南東隅	环、甕 高环、直		
H-2	X66・67 Y241	(0.71)	(2.48)	19.5	(1.47)	N-95°-E	—	甕		
H-3	X68・69 Y241	[1.36]	[1.84]	—	[2.46]	N-84°-E	—	环		

元続社蒼海遺跡群 (58)

遺構名	位置	規模 (m)			面積 (m ²)	主軸方向	竪 位 置	主な出土遺物		
		短軸	長軸	壁厚高 (cm)				土師器	須恵器	その他
H-1	X159 Y236・237	(1.92)	(2.29)	12.0	(4.38)	N-86°-E	東壁や 中央寄り	环		
T-1	X160・161 Y236・237	(1.95)	(3.56)	40.0	(6.39)	N-9°-W	—			灰陶 高台輪

Tab. 3 漢跡計測一覧表

元總社蒼海 (51)

遺構名	位置	長さ (m)	深さ (cm)	上幅 (cm)	下幅 (cm)	主軸方向	断面形	時期
W-1	X231・232 Y105～108	(13.12)	(31)	(122)	(61)	N-12°-W	U字形	
W-2	X233 Y107・108	(3.96)	(34)	(142)	(110)	N-12°-E	U字形	

元總社蒼海 (55)

遺構名	位置	長さ (m)	深さ (cm)	上幅 (cm)	下幅 (cm)	主軸方向	断面形	時期
W-1	欠番							
W-2	X102～105 Y254・255	(10.33)	(25)	(190)	(118)	N-92°-E	緩やかなV字形	
W-3	X103・104 Y255	(3.58)	(16)	(112)	(82)	N-39°-E	U字形	

元總社蒼海 (66)

遺構名	位置	長さ (m)	深さ (cm)	上幅 (cm)	下幅 (cm)	主軸方向	断面形	時期
W-1	X185 Y139～142	(8.39)	(312)	(440)	(108)	N-4°-W	V字形	

元總社蒼海 (67)

遺構名	位置	長さ (m)	深さ (cm)	上幅 (cm)	下幅 (cm)	主軸方向	断面形	時期
W-1	X62～69 Y241・242	(28.30)	(114)	(208)	(34)	N-85°-W	V字形	

Tab. 4 土坑・ピット・井戸跡等計測一覧表

貢海 (53)

遺構名	位置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形状	出土遺物	備考
D-1	X231・232 Y108	120	80	(19)	円形		
D-2	X232 Y107	127	124	(29)	円形		
D-3	X230 Y106	82	79	(17)	円形		
D-4	X231・232 Y106	80	72	(18)	円形		
D-5	X233 Y108	131	125	(23)	円形		
D-6	X230・231 Y107	139	94	(26)	梢円形		
D-7	X229・230 Y105	111	82	70	長方形	縄軸 高台碗、古鉢(寛永通宝)	
D-8	X233 Y107	131	72	43	長方形		
D-9	X228 Y105	92	78	(30)	梢円形		
D-10	X227・228 Y105・106	78	68	(21)	梢円形		
D-11	X227 Y106	66	62	(28)	円形		
D-12	X228 Y105	69	66	23	円形		
D-13	X230 Y105	80	59	(25)	梢円形	灰軸 高台皿、須恵器 羽釜	
D-14	X230 Y105	92	78	(30)	梢円形	酸化焰 高台碗	
D-15	X230 Y105	52	50	(28)	円形		
D-16	X227 Y104・105	210	72	(57)	不整形		

貢海 (55)

遺構名	位置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形状	出土遺物	備考
D-1	X102 Y251・252	189	81	(13)	梢円形		

貢海 (66)

遺構名	位置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形状	出土遺物	備考
D-1	X187・188 Y139・140	130	90	37	長方形		
I-1	X186 Y141	98	86	(91)	円形	礎石	
I-2	X187 Y140	103	100	13	円形		

貢海 (67)

遺構名	位置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形状	出土遺物	備考
D-1	X65・66 Y241	(125)	(40)	(36)	梢円形		

貢海 (68)

遺構名	位置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形状	出土遺物	備考
D-1	X160 Y237・238	(94)	(64)	(37)	方形	古鉢(洪武通宝)	
D-2	X161・162 Y237	(132)	(77)	(60)	梢円形		
D-3	X159 Y238	(209)	(37)	(33)	長方形		
D-4	X161・162 Y237	(98)	(93)	(37)	円形		
D-5	X159 Y237	(72)	(18)	(32)	梢円形		
D-6	欠番						
D-7	X159 Y237	(99)	(73)	(63)	不整形		
D-8	X159 Y237	(68)	(60)	(17)	梢円形		
D-9	X159 Y237	(65)	(50)	(43)	梢円形		

Tab.5 元總社蒼海遺跡群(51)出土器物観察表

番号	出土土壤 樹種	器種名	①口径 ②底径	③高さ	④内土 ⑤内調 ⑥底角度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
SI-1	H-1 土質	土師器 甕	(22.3) (38.1)	②(31.7)	①- ③縫 ④口縁部/5	丸底。脚部から腹部にかけて丸みを帯び、大きくなっている。口縁部や外縫部に立上がり、口部部にかけて前く外反し、開く。外縫割りが施されている。口縫部無地。	7 C 前	
SI-2	H-1 土質	土師器 甕	(1)22.6 (3)	②(8.6)	①- ③縫 ④口縁部/5	外縫割りが施されており、内縫部で調整して底盤形状を交叉。口縁部に向って前方内側に相手が縫合部形状に施される。口縫部が開いて内側に入る。	7 C 前	
SI-3	H-2 土質	土師器 甕	(1)15.5 (3)	②(5.5)	①- ③縫 ④口縁部/4	丸底。茎割りが施されている。内縫部で調整して底盤形状を交叉。口縁部に向って前方内側に相手が縫合部形状に施される。口縫部が開いて内側に入る。	8 C 前	
SI-4	H-2 土質	土師器 甕	(1)17.1 (3)	②(5.9)	①- ③縫 ④口縁部/3	軸縫整形。長縫部に切削後側で調整。後付け両耳。内外縫縫隙部で、外縫部が開いて内側に入る。	8 C 前	
SI-5	H-2 土質	土師器 甕	(1)14.2 (3)	②(4.4)	①- ③縫 ④口縁部/5	平底化が進む。茎割り後側で、口縫部近く内側し、立ち上がる。内縫部無地。	8 C 後	
SI-6	H-2 土質	土師器 甕	(1)13.4 (3)	②(4.0)	①- ③縫 ④口縁部/3	丸底。外縫割りが施されて、内縫部で。口縫部無地で、底く内側し立ち上がる。	8 C 前	
SI-8	H-2 土質	土師器 甕	(1)12.3 (3)	②(3.8)	①- ③縫 ④口縁部/2	軸縫整形。軸割り後側で、無で調整。内外縫縫隙部で、底部内部側か い同心状の縫合が施された様子。	8 C 中	
SI-9	H-2 土質	土師器 甕	(1)17.6 (3)	②(3.1)	①- ③縫 ④口縁部/4	軸縫整形。軸割り後側で、無で調整。内外縫縫隙部で、底部内部側か い同心状の縫合が施された様子。	8 C 前	
SI-10	H-2 土質	土師器 甕	(1)12.0 (3)	②(3.8)	①- ③縫 ④口縁部/2	丸底。外縫割りが施されて調整。口縫部近く内側し立ち上がる。内縫部無地。	55,56,59	8 C 前
SI-11	H-2 土質	土師器 甕	(1)19.8 (3)	②(3.5)	①- ③縫 ④口縁部/2	丸底。外縫割りが施されて調整。内縫部で。口縫部無地で。強く外反し、開く。	75	8 C 中
SI-12	H-2 土質	土師器 甕	(1) (3)	②(1.9)	①- ③縫 ④口縁部/2	外縫部で調整。内縫部で調整後底部から口縫部に内側し、底盤形状の暗文。	14	8 C
SI-13	H-3 土質	土師器 甕	(1)19.8 (3)	②(3.0)	①- ③縫 ④口縁部/2	丸底。茎割り後側で、口部底く縫合が付いて、底立ぎみに立ち上がる。内縫部無地。	19	7 C 中
SI-14	H-3 土質	土師器 甕	(1)16.2 (3)	②(2.3)	①- ③縫 ④口縁部/2	丸底。茎割り後側で調整。口縫部近く内側みに強く立ち上がる。内縫部無地。	2	8 C 前
SI-15	H-3 土質	土師器 甕	(1)11.6 (3)	②(3.3)	①- ③縫 ④口縁部/2	丸底。外縫割りが施されて調整。口縫部近く内側し立ち上がる。内縫部無地。	9	8 C 中
SI-16	H-4 土質	土師器 甕	(1)19.8 (3)	②(2.7)	①- ③縫 ④口縁部/4	丸底。外縫割りが施されて調整。口縫部無地で、やや外傾し、強く立ち上がる。	2	8 C 前
SI-17	H-5 土質	土師器 甕	(1)14.8 (3)	②(4.6)	①- ③縫 ④口縁部/2	やや丸底。茎割りが施されて調整。口縫部無地で強く外傾し、立ち上がる。内縫部無地。	8	8 C 中
SI-18	H-5 土質	土師器 甕	(1)11.6 (3)	②(3.8)	①- ③縫 ④口縁部/2	軸縫整形。軸割り後側で、底部無地で調整。内縫部無地で。	3	8 C 中
SI-19	H-5 土質	土師器 甕	(1)18.8 (3)	②(2.8)	①- ③縫 ④口縁部/5	軸縫整形。内縫部無地で。返りが付く。	9,10	8 C 中

Tab.6 元總社蒼海遺跡群(53)出土器物観察表

番号	出土土壤 樹種	器種名	①口径 ②底径	③高さ	④内土 ⑤内調 ⑥底角度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
SI-1	H-1 土質	土師器 甕	(1)17.4 (3)	②(36.0)	①- ③縫 ④口縁部/2	外縫割りが施されており、口縫部無地でやや外傾し立ち上がり口部開いて、内縫部で。	143,144	6 C 後
SI-2	H-1 土質	土師器 甕	(1)13.0 (3)	②(5.6)	①- ③縫 ④口縁部/2	不真 脚部欠損。外縫割りが施されて、内縫部で。	162	6 C 後
SI-3	H-1 土質	土師器 甕	(1)14.6 (3)	②(4.6)	①- ③縫 ④口縁部/4	丸底。茎調整。口縫部底く縫合がつき、強く外反ぎみに立ち上がる。内縫部無地。	36,9	6 C 後
SI-4	H-1 土質	土師器 甕	(1)11.6 (3)	②(5.8)	①- ③縫 ④口縁部/2	丸底。茎調整。口縫部底く縫合がみに立ち上がる。内縫部で。	161	6 C 前
SI-5	H-1 土質	土師器 甕	(1)12.1 (3)	②(5.5)	①- ③縫 ④口縁部/2	丸底。茎調整。口縫部底く縫合が付く。やや立ぎみに立ち上がる。内縫部無地。	160	6 C 前
SI-6	H-1 土質	土師器 甕	(1)11.4 (3)	②(3.3)	①- ③縫 ④口縁部/5	丸底。底部削りが施されて調整。内縫部で。脚が付き。口縫部外反し立ぎみ。	18	6 C 後
SI-7	H-1 土質	土師器 甕	(1)19.4 (3)	②(9.1)	②不真 ③リープ脚 ④口縁部/1.8	外縫割りが施されており、底部削りが施されている。体部には立ぎみ。口縫部底く外反し立ぎみ。	150	6 C 後
SI-8	H-1 土質	土師器 甕	(1)19.8 (3)	②(11.3)	①- ③縫 ④口縁部/5	外縫割りが施されて、内縫部で調整。口縫部無地で。肩底最大径を持つ。口縫部底く立ぎみに立ち上がる。口部底く外反し立ぎみ。	55,41, 38,47	6 C 後
SI-9	H-2 土質	土師器 甕	(1)11.3 (3)	②(3.5)	①- ③縫 ④口縁部/2	軸縫整形。底盤や丸みを帯び茎調整。口縫部無地で、内縫部無地で。	1,2,3, 4,5,6	8 C 前
SI-10	H-2 土質	土師器 甕	(1)11.0 (3)	②(3.2)	①- ③縫 ④リープ脚/2	軸縫整形。底盤や丸みを帯び茎調整。口縫部無地で、内縫部無地で。	42	8 C 前
SI-11	H-2 土質	土師器 甕	(1) (3)	②(14.6)	①- ③縫 ④リープ脚/2	丸底。底部から体部にかけて立ぎみあり。脚部に最大径を持つ。外縫割りが施されて、底部削りが施され、内縫部無地で。	35,66, 31,67, 46,69	8 C 前
SI-12	H-2 土質	土師器 甕	(1)19.8 (3)	②(3.6)	①- ③縫 ④口縁部/5	丸底。外縫割りが施されて調整。内縫部で。口縫部底く内側し、立ち上がる。	8 C 前	
SI-13	H-4 土質	土師器 甕	(1)23.0 (3)	②(9.3)	①- ③縫 ④口縁部/4	外縫割りが施されて、体部から口縫部にかけては立ぎみに立ち上がる。	48	10 C 後
SI-14	H-4 土質	土師器 甕	(1)23.6 (3)	②(12.0)	①- ③縫 ④口縁部/1.5	外縫割りが施されて、体部から口縫部にかけてやや内側。羽は後付。	44	10 C 中

番号	出土遺構 附記	器種名	①口径 ②底径	③高さ	④土色 ⑤底成 ⑥造形 ⑦造形分類	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
53-15	H-4 床底	須恵器 縁付	①12.0 ②10.0	③4.6	①焼松 ②直身 ③にい青黄(4-4)未定形	輪轂整形。刮削赤切り未調整。内外面輪轂無で。口唇部厚く外反。口縁部及び内側底部輪轂付帯。	10	10C中
53-16	H-7 床底	土器 縁付	①24.0 ②13.0	③6.0	①中松 ②直身 ③焼青	外表面輪轂引抜き後調整。内面腰部、口縁部輪轂無で。弱く外反し。開口。	84 カツド7	10C中
53-17	H-8 輪化焰 縁付	①19.0 ②17.0	③2.7	①中松 ②直身 ③焼青	輪轂整形。底面刮削未切り後、腰で調整。	21	10C前	
53-18	H-8 輪化焰 羽茎	①22.4 ②23.0	③6.0	①中松 ②直身 ③明黄青	外表面削り後腰で調整。羽茎頂部直立。	13,14	10C前	
53-19	H-11 土器 縁付	①17.9 ②8.2	③6.0	①中松 ②直身 ③焼青	底部腰方向削り後腰で調整。口縁部や外根柢に立ち上がり。口縫部直立。	21	8C中	
53-20	H-11 土器 縁付	①13.2 ②5.6	③6.0	①— ②直身 ③焼青	丸底。外表面削り後腰で調整。内面腰で調整。全体内部に斜線状の電気が施される。口縫部や外根柢に立ち上がる。	13,17, 22,23	8C中	
53-21	H-11 土器 縁付	①13.4 ②4.3	③6.0	①— ②直身 ③焼青	丸底。外表面削り後腰で調整。内面腰で調整。全体内部に斜線状の電気が施される。口縫部や外根柢に立ち上がる。	19	8C中	
53-22	H-12 土器 小堀	①9.4 ②3.0	③11.8	①— ②直身 ③焼	丸底。体部中央最大太さを持つ。底部削り内反し。口縫部底定。外表面削り後腰で調整。口縁部輪轂無で。内面輪轂引き横張り。	11,12, 27,61 植土	8C中	
53-23	H-12 土器 小堀	①18.1 ②9.0	③13.2	①— ②直身 ③焼	輪轂整形。内外面輪轂無で。肩に最大径を持つ。口縫部底定。	7	8C後	
53-24	H-12 土器 小堀	①22.6 ②11.0	③6.0	①中松 ②直身 ③にい青	外表面削り後腰で調整。口縫部底定。口縫部底立ぎみに立ち上がり口唇部にかけて削り残す。開口。	13,14,24	8C後	
53-25	H-17 輪化焰 縁付	①29.0 ②7.6	③6.0	①中松 ②直身 ③焼 ④口縫底1/8	外表面削り後腰で調整。小さな羽が付いて口縫部ほぼ直立。	10C後		
53-26	H-19 土器 縁付	①12.6 ②6.0	③4.6	①中松 ②直身 ③焼 ④口縫底	丸底。外表面削り後腰で調整。口縫部底く内反し。内面腰で調整。	1	7C後	
53-27	H-21 輪化焰 縁付	①9.7 ②4.1	③6.0	①中松 ②直身 ③焼 ④口縫底	輪轂整形。刮削赤切り後で調整。内外面輪轂無で。口唇部厚く外反。	3	10C中	
53-28	H-22 土器 カツラ	①8.5 ②4.5	③2.1	①中松 ②直身 ③焼	輪轂整形。底面刮削未切り未調整。内外面輪轂無で。	1	10C後	
53-29	H-22 土器 カツラ	①8.8 ②5.9	③1.9	①中松 ②直身 ③焼 ④口縫底	輪轂整形。刮削赤切り後で調整。内外面輪轂無で。	6,19	10C後	
53-30	H-23 輪化焰 縁付	①19.0 ②5.0	③9.0	①中松 ②直身 ③焼 ④口縫底	輪轂整形。刮削赤切り後で調整。内外面輪轂無で。	12	10C中	
53-31	H-23 輪化焰 縁付	①11.6 ②5.4	③3.7	①中松 ②直身 ③焼 ④口縫底	輪轂整形。刮削赤切り未調整。内外面輪轂無で。	19	10C中	
53-32	H-23 灰釉 高輪	①13.6 ②6.0	③3.8	①中松 ②直身 ③焼白	輪轂整形。刮削赤切り腰で調整。内外面輪轂無で。削り出し高台。口縫部底に内反す。	21	10C中	
53-33	H-23 灰釉	①— ②—	③—	①輪轂 ②直身 ③リニア底	輪轂整形。内外面輪轂無し。	1	10C中	
53-34	H-28 輪化焰 縁付	①11.3 ②6.0	③4.0	①中松 ②直身 ③焼青	輪轂整形。底面刮削未切り未調整。内外面輪轂無で。	49	10C中	
53-35	H-28 輪化焰 縁付	①19.8 ②5.0	③2.8	①中松 ②直身 ③焼 ④にい青黄(4-4)未定形	輪轂整形。底面刮削未切り未調整。内外面輪轂無で。	38	10C中	
53-36	H-28 輪化焰 羽茎	①24.4 ②16.0	③6.0	①中松 ②直身 ③焼	内外面輪轂で調整。	2	10C中	
53-37	H-28 土器 縁付	①28.4 ②12.0	③6.0	①中松 ②直身 ③焼青	外表面腰方向削り。内面腰で、口縫部底にコ字を呈す。	31	10C中	
53-38	D-7 縁付	①12.2 ②6.0	③3.4	①中松 ②直身 ③焼青	輪轂整形。腰系系。削り出し高台。トランク板有り。見込部背面色地。	1	7C後~ 18C前	
53-39	D-13 灰釉 高輪	①12.4 ②6.0	③2.4	①中松 ②直身 ③焼白	輪轂整形。底面刮削赤切り腰で調整。削り出し高台。台盤輪。	1	11C前	
53-40	D-13 須恵器 羽茎	①21.6 ②19.3	③6.0	①中松 ②直身 ③焼	外表面削り後腰で調整。内面腰で。	3	10C後	
53-41	D-14 輪化焰 縁付	①14.9 ②5.8	③6.0	①中松 ②直身 ③にい青黄	輪轂整形。付けけ高台。ハの字に開く。内外面輪轂無で。	1	10C後	
53-42	H-2 土器 縁付	①18.2 ②6.0	③2.4	①— ②直身 ③焼	丸底。裏削り後腰で調整。口縫部底く腰が付き、外側に立ち上がる。内面腰で。口縫部輪轂無で。	44,72	8C前	

Tab. 7 元紳社晉海遺跡群(66)出土土器観察表

番号	出土遺構 附記	器種名	①口径 ②底径	③高さ	④土色 ⑤底成 ⑥造形 ⑦造形分類	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
66-1	H-3 床底	土器 縁付	①12.5 ②8.1	③4.6	①— ②直身 ③焼 ④口縫底	丸底。外表面削り後、腰で調整。口縫部底く内側し立ち上がる。内面腰で調整。	1	8C前
66-2	H-3 床底	土器 縁付	①— ②13.6	③6.0	①— ②直身 ③焼	底部腰方向削り。底部削り後腰で。底部削り後腰で。内面腰削り。	8,16	6C末
66-3	H-3 床底	土器 縁付	①12.6 ②19.5	③6.0	①— ②直身 ③焼青	底部腰方向削り。口縫部削りでや強く外根柢に開く。	3	7C中
66-4	W-1 甕	須恵器 縁付	①19.5 ②5.6	③6.0	①— ②直身 ③焼 ④口縫底	輪轂整形。内外面輪轂無で。内面全体に施脂。	中世	
66-5	W-1 甕	縁付	①— ②—	③—	①— ②直身 ③— ④焼片	輪轂整形。内外面輪轂有り。口唇部厚く外側に折り込む。	中世	

番号	出土遺構 相	器種名	①口径 ②底径	②高さ	③底面 ④側面の形	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	参考
66-6	W-1 甕	香炉	①(15.4) ③底	②6.5 ④直	③中絞 ④直	②良好 ④1/4 細繩整形。底部回転み切り後、腰で調整。頂付。内外面細繩飾。		中世
66-7	XINGYI 141 W-1	縁物	①— ③—	②— ④—	①中絞 ③— ④—	②良好 ④— 細繩整形。外表面自然。		中世

Tab.8 元總社蒼海遺跡群(67)出土土器観察表

番号	出土遺構 相	器種名	①口径 ②底径	②高さ	③底面 ④側面の形	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	参考
67-1	H-1 床面	土陶器 壺	①(19.6 35.4)	②8.3 ④直	③— ④直	②良好 ④1/5 外表面削り落無で整形。内面削で調整。つまみ足や手すり底立。底調整後無。	1	6C末
67-2	H-1 覆面	土陶器 壺	①(11.2) ③—	②(3.2) ④—	③— ④直	丸底。外表面削り落無で調整。内面削で。弱く腰が付き。外反ぎみ立ち上る。		6C後
67-3	H-1 床面	土陶器 壺	①(19.5 33.9)	②(26.4) ④直	③— ④直	②良好 ④1/5 ③c.高い腰(4.0±0.8)整形 体底部から底面にかけて丸底削り。口縁部整く立ち上がり。口唇部削り外反。口縁部整無。	2,17	7C初頭
67-4	H-1 床面	土陶器 壺	①(26.1 38.9)	②(29.9) ④直	③— ④直	②良好 ④1/5 ③c.高い腰(4.0±0.8)整形 体底部削り削り。口縁部削り。口縁部整く外反し開く。	2	6C末
67-5	H-1 床面	土陶器 壺	①— ③—	②(16.4) ④直	③— ④直	②良好 ④1/2 底径非常に小さい。外表面は底削り。内面削で調整。	16	7C中
67-6	H-1 床面	土陶器 壺	①(19.2 33.4)	②(21.4) ④直	③— ④直	②良好 ④1/2 ③c.高い腰(4.0±0.8)整形 体底部削り削り。口縁部削り外反し開く。内面削無。	14,13	7C初頭
67-7	H-2 床面	土陶器 壺	①(19.8 33.5)	②(25.9) ④直	③— ④直	②良好 ④1/2 ③c.高い腰(4.0±0.8)整形 同様から体底部にかけて丸底を帯び。大きくなら。口縁部や腰底どまり立ち上げ。口唇部削り外反。体底部削り削無。口縁部削り。内面削で調整。	1,5,6	7C中
67-8	H-2 床面	土陶器 壺	①(22.4 33.5)	②(22.4) ④直	③— ④直	②良好 ④1/2 ③c.高い腰(4.0±0.8)整形 体底部削り削り。口縁部削り。開く。内面削無。	1,4	7C中
67-9	H-3 覆面	土陶器 壺	①(19.6 33.5)	②(3.7) ④直	③— ④直	②良好 ④1/2 ③c.高い腰(4.0±0.8)整形 外表面削り落無で。内面削で。口縁部削り。強く外反し開く。		7C中
67-10	W-1 覆面	盤	①— ③7.0	②(3.5) ④直	③— ④直	②良好 ④1/2 ③c.高い腰(4.0±0.8)のみ 細繩整形。刮糸切り未調査。頂付け両台。内外面細繩飾。	10C中~後	

Tab.9 元總社蒼海遺跡群(68)出土土器観察表

番号	出土遺構 相	器種名	①口径 ②底径	②高さ	③底面 ④側面の形	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	参考
68-1	H-1 底面	土陶器 壺	①(11.0 33.2)	②3.9 ④直	③中絞 ④直	②良好 ④1/2 丸底。外表面削り削無で調整。口縁部削り内側し。立ち上がる。内面削で調整。	1	8C前
68-2	H-1 底面	土陶器 壺	①(11.5 33.2)	②4.0 ④直	③中絞 ④直	②良好 ④1/2 丸底。外表面削り削無で調整。口縁部削り内側し。立ち上がる。内面削で調整。	2	8C前
68-3	H-1 底面	土陶器 壺	①(11.4) ③—	②4.0 ④直	③中絞 ④直	②良好 ④1/2 丸底。外表面削り削無で調整。内面削で。口縁部削り内側し立ち上がる。	1	8C中
68-4	T-1 底面	灰陶 高台壺	①(7.9 33.3)	②1.9 ④直	③— ④直	②良好 ④— 細繩整形。割り出し高台。自然壺。		中世
68-5	灰陶	盤	①(12.6 33.5)	②5.8 ④直	③— ④直	②良好 ④1/3 ③c.高い腰(4.0±0.8)整形 細繩整形。底部刮糸切り後削で調整。内外面細繩飾。	10C後	
68-6	灰陶	盤	①(9.6 33.5)	②3.7 ④直	③中絞 ④直	②良好 ④1/2 ③c.高い腰(4.0±0.8)のみ 細繩整形。内外面細繩飾で。口縁部削り外反。両台の底径が小さく差がある。	10C後	

(注) ①層位は、「床面」は深さより30cm以内の層位から輸出。「壁面」は深さより10cmを超える層位から出土の2段階に分けた。窓内の輸出については「窓内」と記載した。

②口径。直径の単位はcmである。現地地名を「」、発光地名を「」で示した。

③底土は、細粒(0.9mm以下)、中粒(1.0~1.9mm以下)、粗粒(2.0mm以上)とし、特徴的な動物が入る場合に動物名等を記載した。

④底成形。焼物。良杯。不良の三段階とした。

Tab.10 石器・石製品観察表

番号	出土遺構 層位	器種名	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	石材	遺存度	登録番号	備考
53-石1	H-1 床直	白玉	1.1	1.1	0.5	1.0	滑石	完形	20	
53-石2	H-1 床直	白玉	1.1	1.1	0.5	0.7	滑石	ほぼ完形	152	
53-石3	H-1 覆土	石製模造品 有孔円板	2.5	2.5	0.4	2.1	滑石	1/2		
53-石4	H-1 覆土	白玉	1.7	1.7	0.5	2.6	滑石	1/2		未製品
53-石5	H-1 覆土	白玉	1.8	1.4	0.6	2.6	滑石	1/2		未製品
53-石6	H-1 床直	石製模造品 有孔円板	3.5	(2.0)	0.4	6.2	滑石	1/2	37	
53-石7	H-1 床直	鍛錬車	4.6	4.3	3.0	66.5		完形	164	
53-石8	H-1 床直	鍛錬車	4.6	4.5	2.1	42.0		完形	1	
53-石9	W-2	石鐵	2.6	1.7	0.3	1.2		完形	1	
53-石10	H-4 覆土	砥石	(4.5)	(3.4)	1.3	18.0		1/4		
54-石11	表探	打製石斧	11.0	3.9	1.6	72.0		完形		
54-石12	表探	打製石斧	11.8	4.8	1.9	120		完形		
66-石13	I-1 覆土	砥石								

注) ①層位は、「床直」：床面より10cm以内の層位から検出、「覆土」：床面より10cmを超える層位から出土の2段階に分けた。

②最大長・最大幅・最大厚の単位はcmであり、重さの単位はgである。現存地を()で示した。

Tab.11 鉄器・鉄製品観察表

番号	出土遺構 層位	器種名	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重さ(g)	遺存度	登録番号	備考
51-鉄1	H-5	刀子	(12.5)	0.8	0.5	13.0	ほぼ完形	7	
51-鉄2	表探		(5.1)	(2.5)	0.3	12.4	—		
53-鉄3	H-3	釘	5.8	0.6	0.6	12.0	2/3	8	
53-鉄4	H-2	釘	7.3	0.6	0.6	12.0	ほぼ完形	73	
53-鉄5	H-7 覆土	釘	7.0	0.4	0.5	5.4	完形		
53-鉄6	H-17 覆土	環状鉄製品	2.1	3.2	0.6	9.8	完形		
53-鉄7	H-4 床直	手付鏡	(6.1)	4.0	0.4	180	把手一部のみ	36	

Tab.12 出土古銭一覧表

番号	位置	名称	材質	年代	種類	備考
53-銭1	X229Y105	寛永通宝	銅	17C	国内鑄造銭	裏に「文」の文字
53-銭2	X229Y105	寛永通宝	銅	17C	国内鑄造銭	
68-銭3	表探	洪武通宝	銅	14C	明銭	

Tab.13 瓦観察表

番号	出土遺構	器種名	①長さ(cm) ②厚さ(cm)	①胎土 ②焼成 ③色調 ④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
51-瓦-1	表探	軒平瓦	①(3.6) ②(3.6)	①細粒 ②良好 ③灰 ④破片	凹面無で、凸面は刻離し欠損。唐草文様が僅かに観察できる。		

注) ①解説は、「床直」：床面より10cm以内の層位から検出、「覆土」：床面より10cmを超える層位から出土の2段階に分けた。

②最大長・最大幅・最大厚の単位はcmであり、重さの単位はgである。現存地を（ ）で示した。

VI ま と め

本年度発掘調査を実施した元総社蒼海遺跡群(51)～(55)・(66)～(68)は、土地区画整理事業区域内の北部及び南部に点在している。また、道路部分が調査対象であることから、調査面積が狭小な遺跡も多い。さらに、遺構密度にはばつきがあることも関係し、特に元総社蒼海遺跡群(52)及び(54)では遺構が検出されなかった。

こうした中でも、遺構・遺物の検出成果としては、古墳時代から奈良・平安時代にかけての集落跡、中世の蒼海城関連遺構が挙げられる。遺物に目を向けると、元総社蒼海遺跡群(51)から螺旋状暗文を持つ壺、元総社蒼海遺跡群(53)では白玉をはじめとする石製品や刀子や釘などの鉄製品、なかには鉄製把手付鍋の柄部といつものも出土している。

1 遺跡別に見る集落跡の概要

(1) 元総社蒼海遺跡群(51)

本遺跡では竪穴住居跡が6軒検出された。そのうち4軒は8世紀前半から中葉にかけての遺構である。8世紀代の集落跡と考えられる。発掘調査面積が狭小であることから、住居跡はいずれも部分的な検出にとどまっている。また、出土遺物数も少ない傾向にあり集落跡の構成を把握するには至っていない。こうした状況の中で、H-2号住居跡については他の遺構に比べ残存状況も良く出土遺物も最も多い。特に本遺構からは、螺旋状暗文を有する壺形土器や盤などが出土している。本遺跡が上野国分尼寺跡に近いことが影響していると考えられる。特に本遺跡周辺は、土地区画整理事業や関越自動車道の建設に伴い、多くの発掘調査が行われている。その結果、140点を超える螺旋状暗文を有する壺形土器が見つかっている。上野国分僧寺・尼寺中間地域遺跡などでの出土数が多く、本遺跡が所在する元総社蒼海遺跡群のなかでも西寄りの地域に集中している。本遺構で出土した螺旋状暗文を有する壺形土器や盤も廃棄されたものと思われるが、丁寧な作りであることから当時の人々も自らの生活の中で大切に再利用していたのではなかろうか。

(2) 元総社蒼海遺跡群(52)

調査面積が非常に狭小であり、遺構の検出には至っていない。

(3) 元総社蒼海遺跡群(53)

本遺跡は最も広い調査面積を持ち、検出遺構数も最大である。住居跡は18軒で時期別では以下のとおりである。

時 期	6世紀	7世紀	8世紀	9世紀	10世紀	時期不明
軒 数	1	1	3	0	8	5

牛池側右岸の高台に位置し、北東方向は開けた展望である。眼下の牛池側左岸では水田跡などの遺構が見つかっており生産の場として考えられる。それに対し本遺跡は、生活の場としての傾向が強い。検出された住居跡は、調査区西側に集中しておりその為重複が激しい。特に10世紀代の住居跡は集中の度合いが強く、新旧關係の判断に苦慮した。土地区画整理事業に伴うこれまでの発掘調査でも本遺跡周辺では10世紀代の住居跡が多く検出されていることから、本遺跡を含めた一帯は10世紀代に活発な人の営みがあったのであろう。高台の縁部にも住居が作られていることでも伺い知ることができる。出土遺物としては、羽釜や土釜、輪轂整形の壺や椀などが主体となるが、刀子や釘などの鉄製品も出土している。中でも特筆すべきはH-4号住居跡から出土した鉄製把手付鍋

の把手部である。現代におけるフライパンを連想させるもので把手部は空洞であり、そこに木製の柄を装着したものと考えられる。

また、今回の調査では検出されなかつたが表探遺物、グリッド遺物として鉄滓が出土している。鉄塊系遺物が主体であるが椀型滓も多く見受けられる。総量としては992gである。このことから、かつては鍛冶工房が存在していたのではないかと推察される。本遺跡では9世紀代の住居跡が検出されていないこと、高温の炉を取り扱う鍛冶工房が一般集落の中に混在するとは考えにくいくことなどを考慮すると、この時期に存在していた可能性も捨てきれない。上野国府が機能していたのが8・9世紀代であることを考慮すると、鉄・鉄器生産関連遺構を明らかにしていくことが、国府開発を考える上で非常に重要であると思われる。

(4) 元総社蒼海遺跡群（54）

調査面積が狭小で後世の搅乱を受けており、遺構の検出には至っていない。

(5) 元総社蒼海遺跡群（55）

本遺跡では竪穴住居跡が2軒検出されたが、H-2号住居跡については調査区東端で非常に部分的な検出であり時期も不明である。H-1号住居跡についても残存状況は悪く出土遺物も少なかった。過去の調査でも本遺跡周辺では住居跡の検出数は非常に少ない状況である。

(6) 元総社蒼海遺跡群（66）

本遺跡では竪穴住居跡が3軒の他、蒼海城の堀と思われる大溝が検出された。H-2号住居跡とH-3号住居跡については、主軸方向が近似している。また、出土遺物に関しては、量・種類とともに多くはないが、時期の類似する遺物が見つかっている。両遺構とも7世紀代の住居跡である。本遺跡に最も近い遺跡としては、元総社蒼海遺跡群（38）の6区（以下「6区」という）が挙げられる。ここでも6世紀第4四半期から7世紀後半にかけての住居跡が見つかっている。本遺跡、6区とともに住居跡の重複は少なく、10世紀代の遺構は検出されていない。本遺跡については、古墳時代後半の集落跡と考えられる。

今回検出した大溝は、前述した6区でも同様に見つかっている。南北方向に走行する大溝で、V字を呈し深さは3.12mを測る。本遺跡では調査区西壁に沿って検出されたが、溝全体の東半分にとどまっている。6区での調査成果を参照すると上幅で5mを越す規模と推察される。出土遺物は少ないが香炉や尾呂茶碗などが出土した。

(7) 元総社蒼海遺跡群（67）

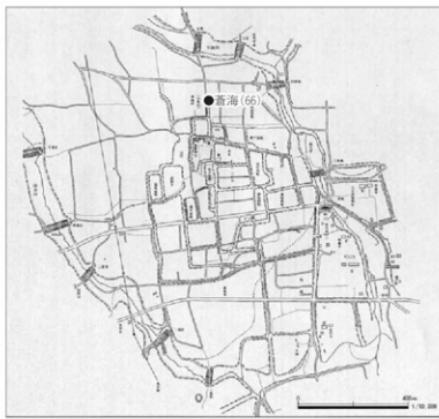
本遺跡では竪穴住居跡が3軒検出された。H-1号住居跡が最も古く6世紀末から7世紀初頭にかけての遺構と考えられる。H-2号及びH-3号住居跡は7世紀中葉の遺構と考えられ、本遺跡は7世紀代の集落跡として位置づけられる。検出状況は3軒とも北壁に沿う形で、遺構の全容は明確でなく残存状況も良好とは言えない。こうした状況であったがH-1号住居跡の竈については、比較的残りが良く天井石や両袖部に構築材として再利用された長胴甕、また竈焚口脇に長胴甕と土器飾の蓋が出土した。当時の使用状況を彷彿とさせるような出土状況である。

(8) 元総社蒼海遺跡群（68）

本遺跡では竪穴住居跡1軒、竪穴状遺構1軒が検出された。本遺跡地は、蒼海城の鎌田屋敷と称される部分に位置しており、中世に帰属するものと想定される遺構もある。D-1号土坑がそれに該当すると思われ、明鏡（洪武通鑑）などが出土している。

本遺跡や西に隣接する元總社蒼海遺跡群（21）の調査成果を見ると竪穴住居跡は本遺跡で見つかった1軒のみであり、遺構の残存状況も良好でない。後世の削平による影響なのか、遺構密度の低い地域であるのか判断に苦慮するところである。

2 蒼海城の堀跡について



蒼海城廻張り図（山崎一 1978『群馬県古城址の研究 上巻』より 1/10,000）

検出され各地に所在していた数個の館跡などの解明はもちろんのこと、国府関連の遺構が検出されることを期すものである。

3 おわりに

本遺跡地周辺は、縄文時代より現在に至るまで人々の生活が営まれてきた土地である。これまで本遺跡地周辺の発掘調査は数多く行われており、これからも元總社蒼海土地区画整理事業に伴い発掘調査は継続して行われるが、今後は、今までの個々の調査成果を結びつけ、面的な研究を推進することにより、国府域及びその周辺部の土地利用解明に繋がることを期するものである。

〈引用参考文献〉

- 群馬県教育委員会・財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団編 「鳥羽遺跡 L・M・N・O区 一関越自動車道（新潟線）地域埋蔵文化財発掘調査報告書第31集」 1990年
財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団編 「上野宮分僧寺・尼寺中間地城（1）」 1986年
群馬県教育委員会・財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団編 「糸井宮前遺跡」 一関越自動車道（新潟線）地域埋蔵文化財発掘調査報告書第8集 1985年
群馬県勢多郡大胡町教育委員会編 「大胡西北部遺跡群 堀越中道遺跡」 1997年
山崎一 「群馬県古城址の研究 上巻」 1978年

前橋市埋蔵文化財発掘調査団編 「元總社蒼海遺跡群 元總社小見内IV遺跡」2002年
前橋市埋蔵文化財発掘調査団編 「元總社蒼海遺跡群 元總社小見内VI遺跡」2003年
前橋市埋蔵文化財発掘調査団編 「元總社蒼海遺跡群 (8)」2008年
前橋市埋蔵文化財発掘調査団編 「元總社蒼海遺跡群 (16)」2008年
前橋市埋蔵文化財発掘調査団編 「元總社蒼海遺跡群 (21)」2009年
前橋市教育委員会編 「元總社蒼海遺跡群 (37)」2012年
前橋市教育委員会編 「元總社蒼海遺跡群 (38)」2012年
前橋市教育委員会編 「年報 第42集」2011年
前橋市教育委員会編 「年報 第43集」2012年

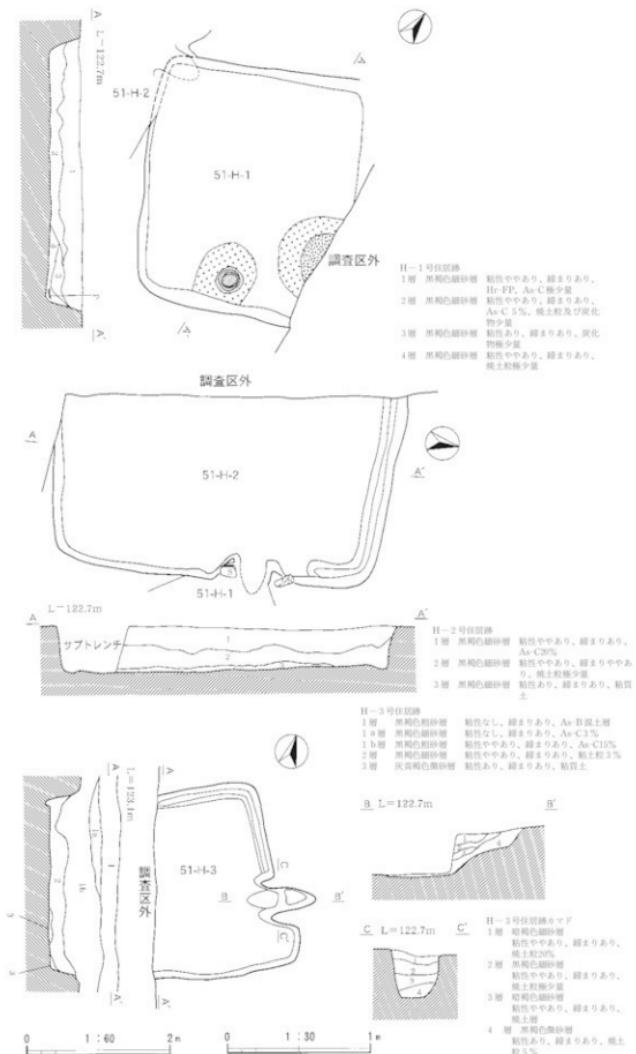


Fig.13 (51) H-1 ~ 3号住居跡

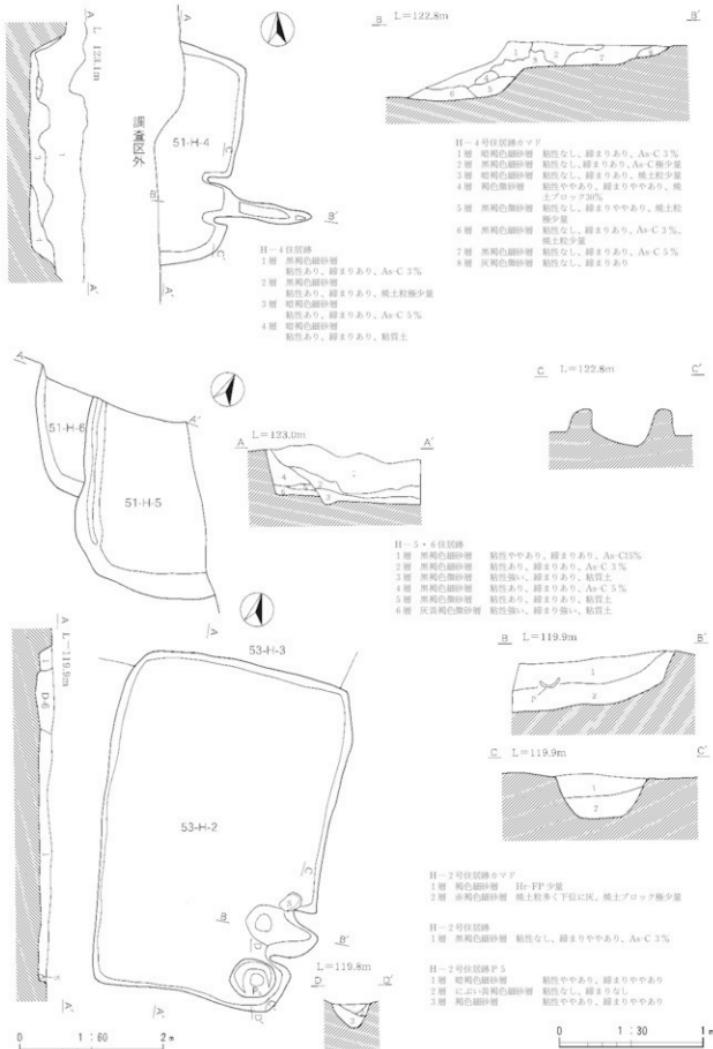


Fig.14 (51) H-4～6号住居跡、(53) H-2号住居跡

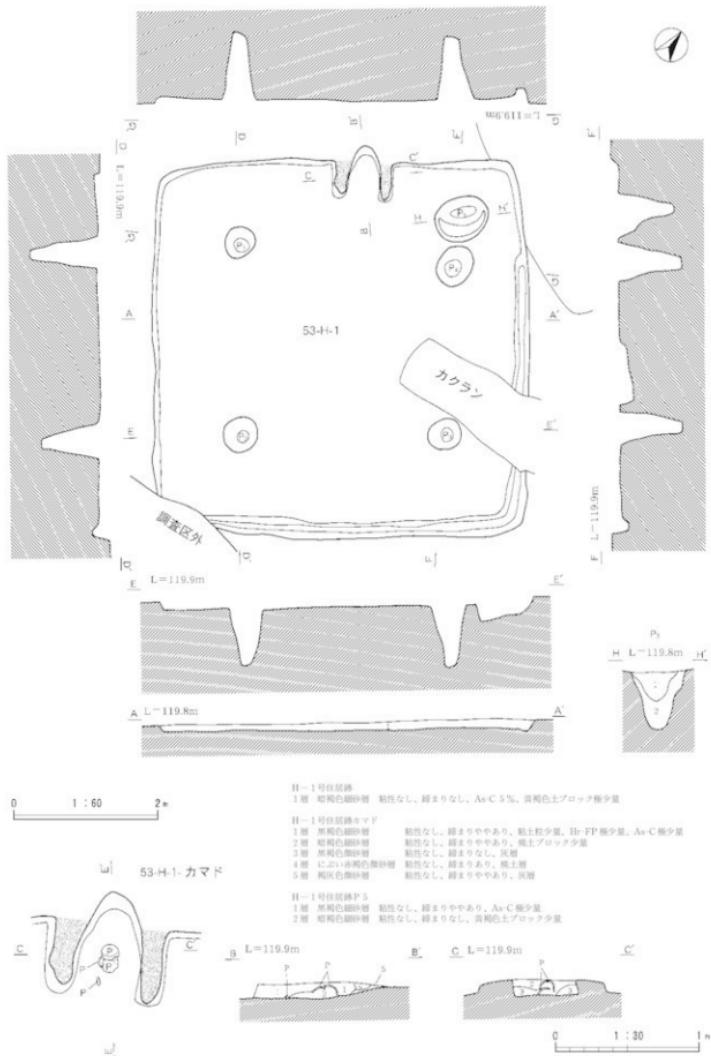


Fig.15 (53) H-1号住居跡

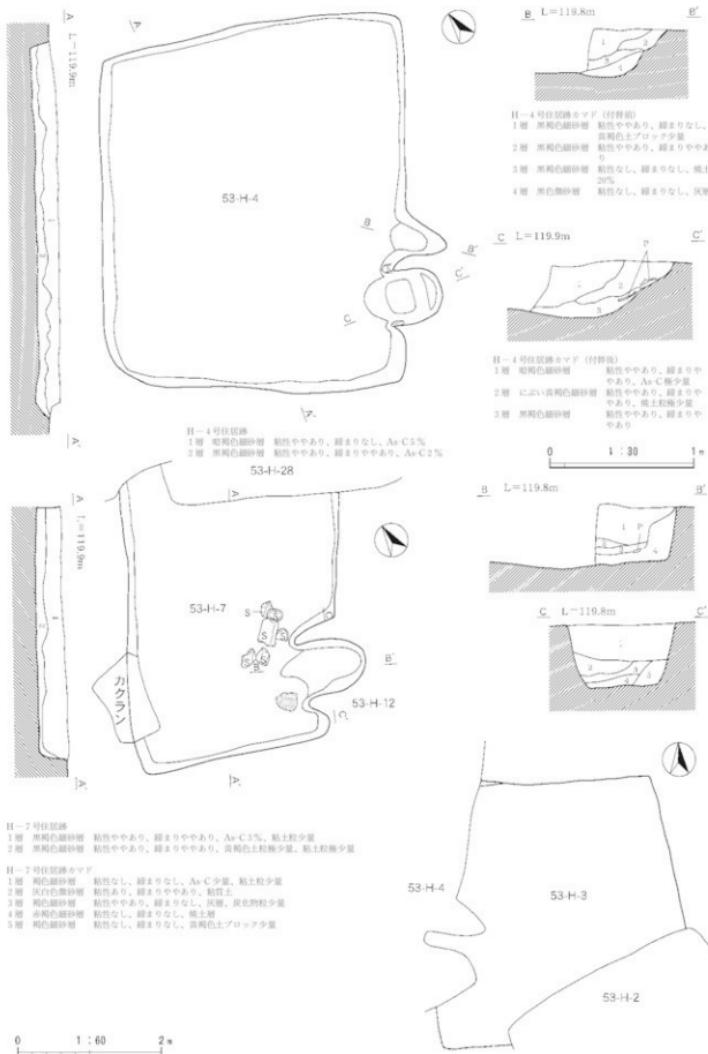


Fig.16 (53) H-3・4・7号住居跡

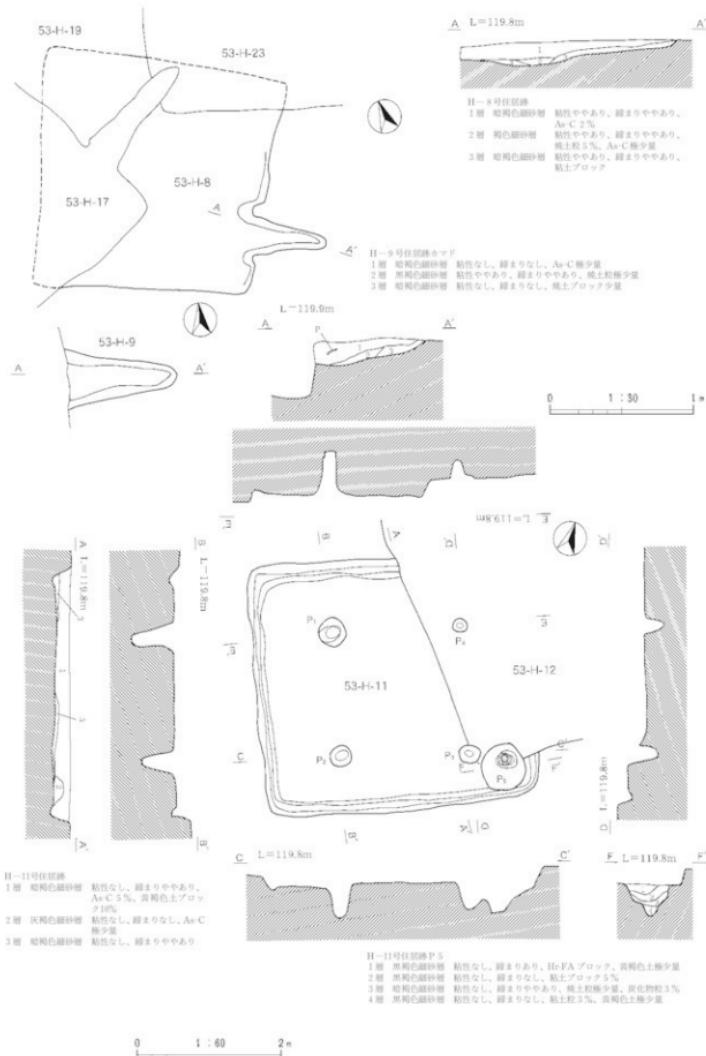


Fig.17 (53) H-8・9・11号住居跡

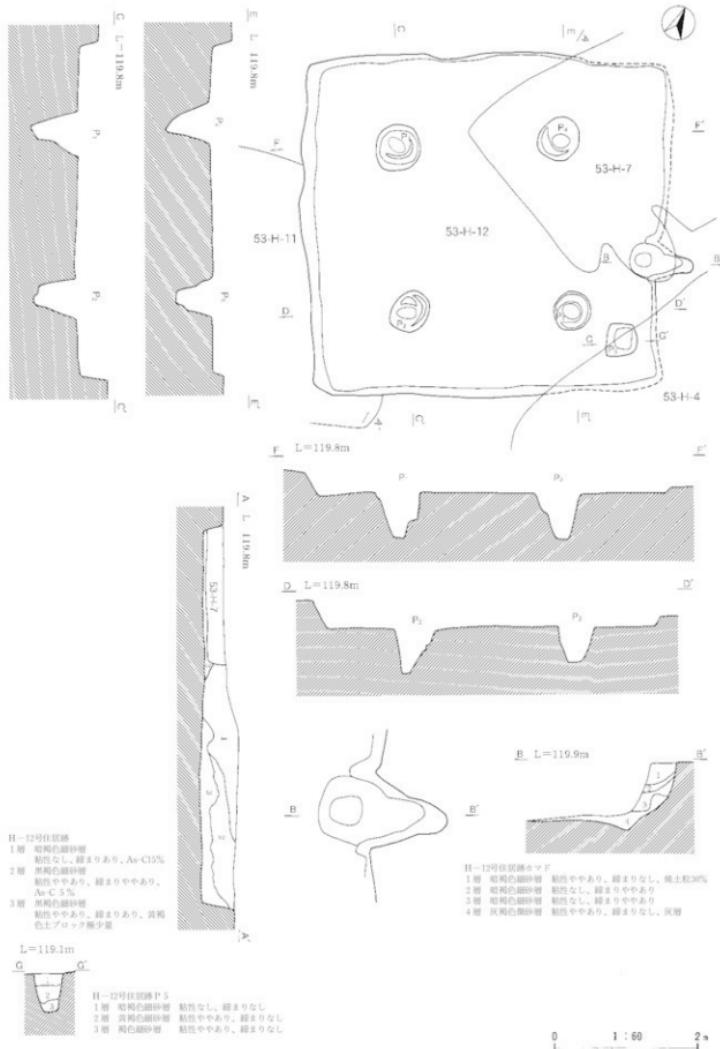


Fig.18 (53) H-12号住居跡

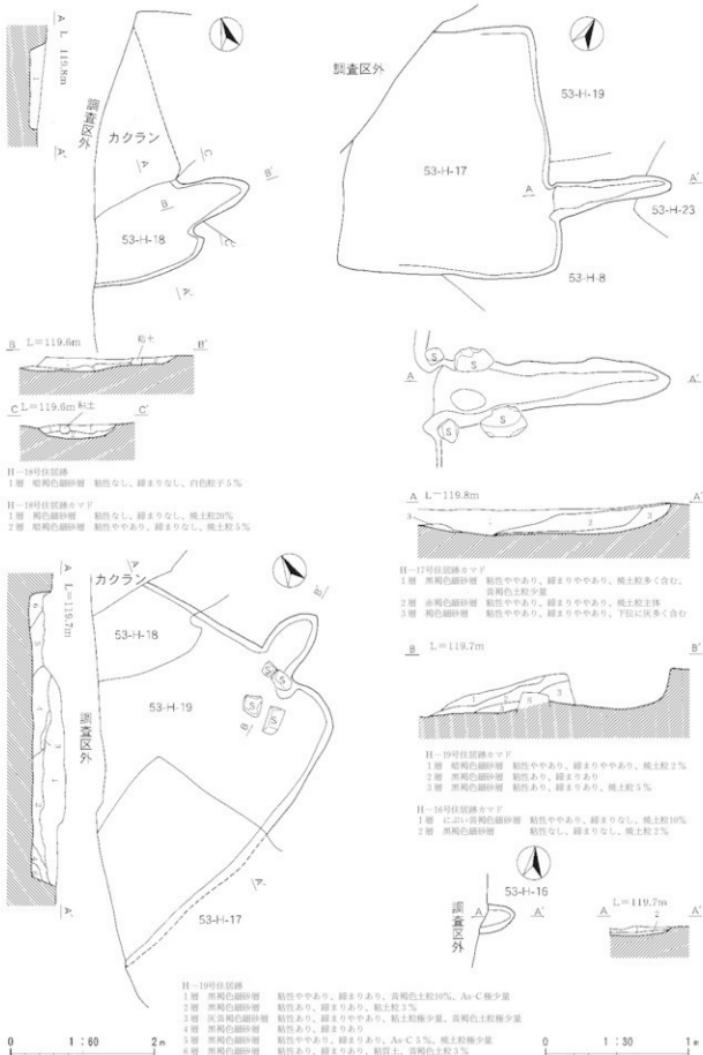


Fig.19 (53) H-16~19号住居跡

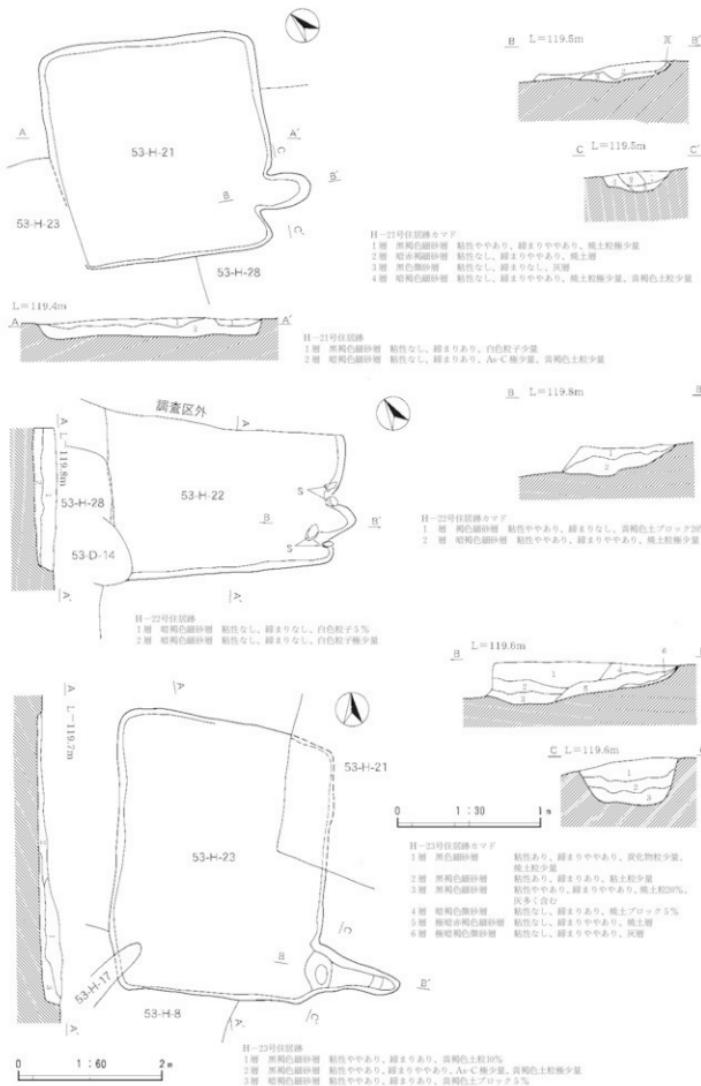


Fig.20 (53) H-21～23号住居跡

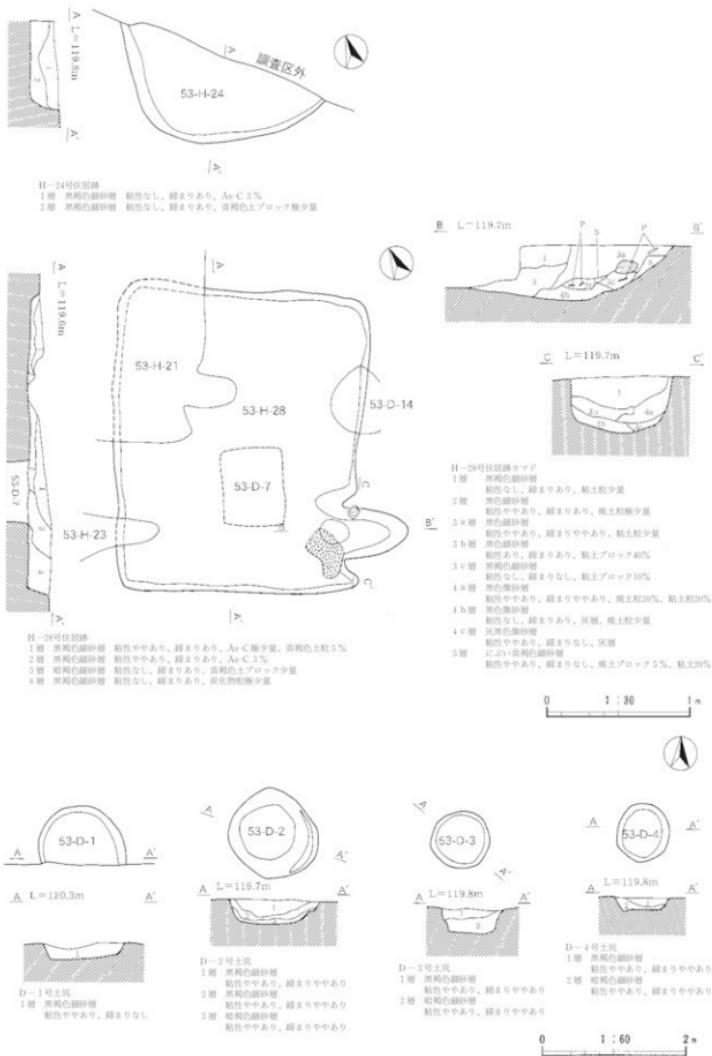


Fig.21 (53) H-24・28号住居跡、D-1～4号土坑

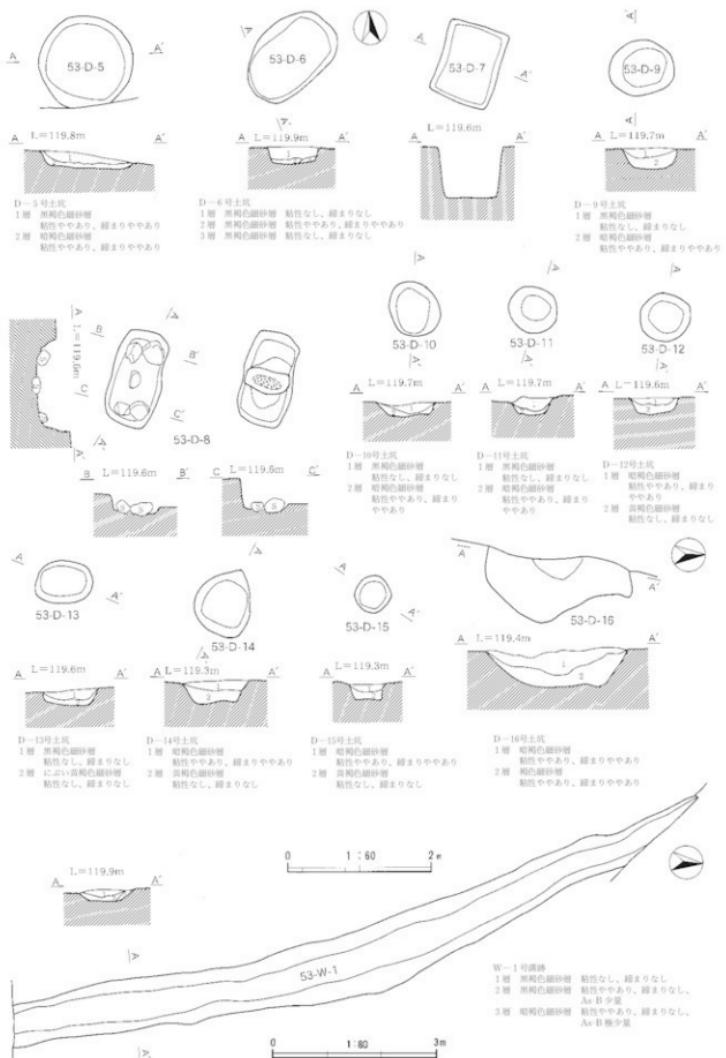


Fig.22 (53) D-5~16号土坑、W-1号溝跡

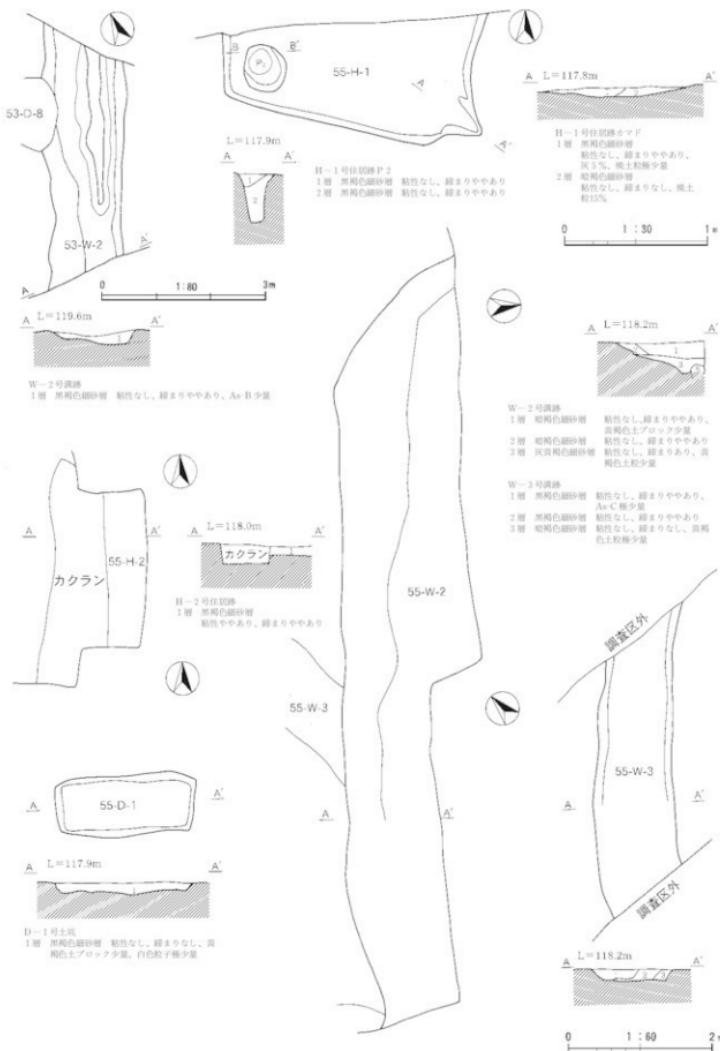


Fig.23 (53) W-2号溝跡、(55) H-1・2号住居跡、W-2・3号溝跡、D-1号土坑

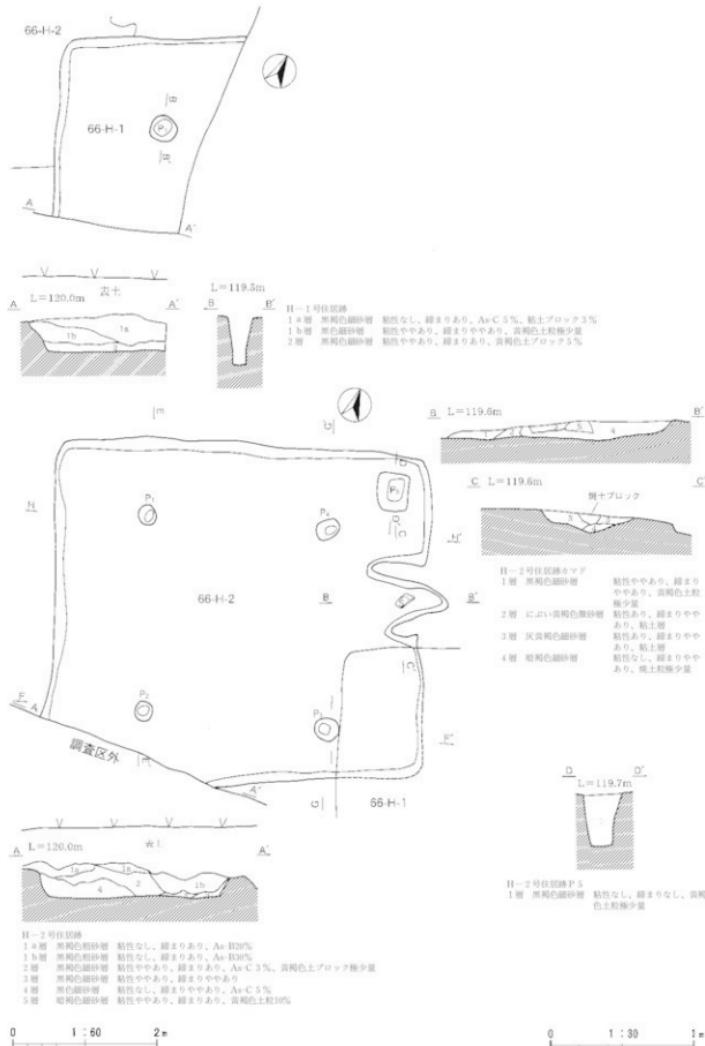
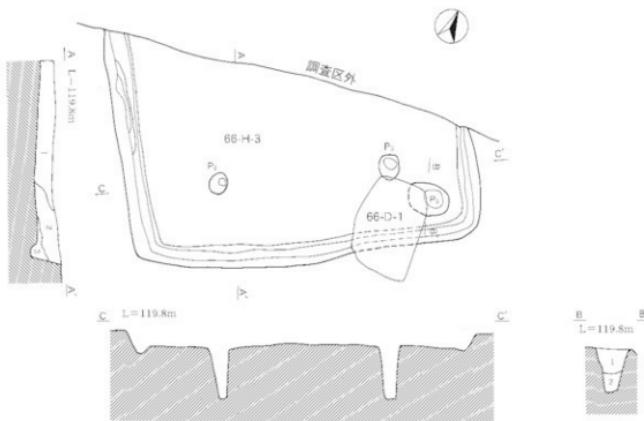
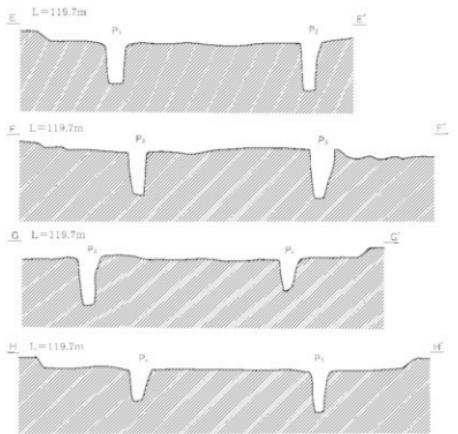


Fig.24 (66) H-1・2号住居跡



H-3号住居跡
 1層 黒褐色細砂岩 粘性なし。締まりややあり。As-C 5%。黄褐色土粒 3%。
 2層 明褐色細砂岩 粘性なし。締まりややあり。As-C 稍少。黄褐色土粒 5%。
 3層 黑褐色細砂岩 粘性なし。締まりあり。黄褐色土粒極少。

H-3号住居跡 P-5
 1層 黒褐色細砂岩 粘性なし。締まりややあり。黄褐色土ブロック 3%、白色粘土極少量。
 2層 明褐色細砂岩 粘性なし。締まりなし。黄褐色土ブロック極少量。

0 1 : 60 2m

Fig.25 (66) H-2・3号住居跡

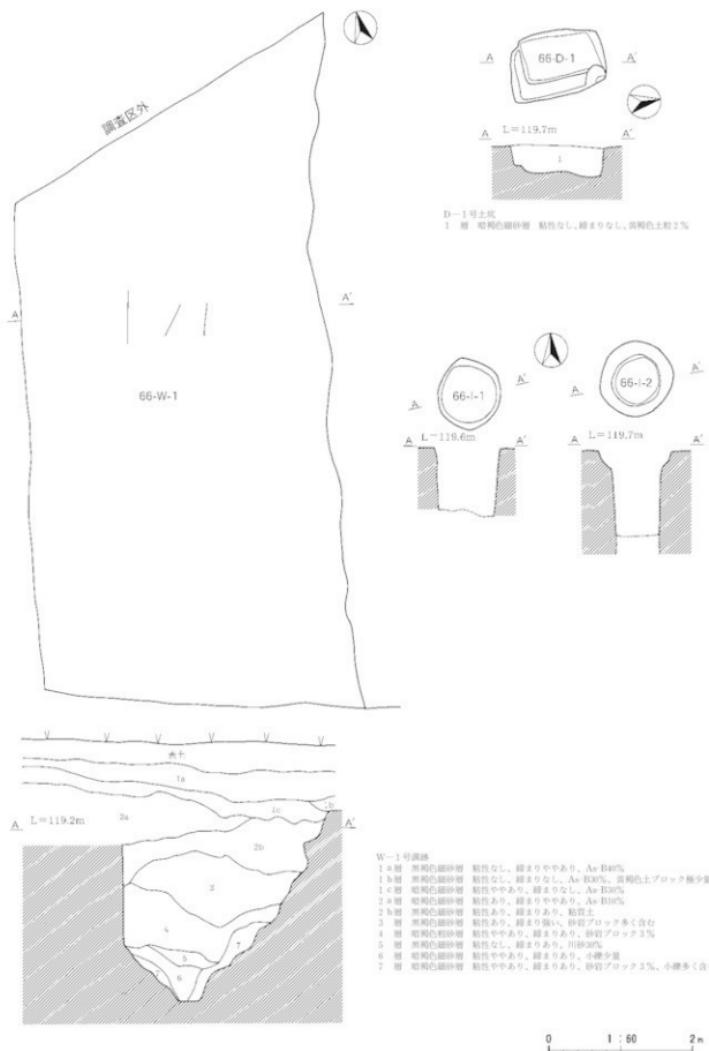


Fig.26 (66) W-1号溝跡、D-1号土坑、I-1・I-2号戸跡

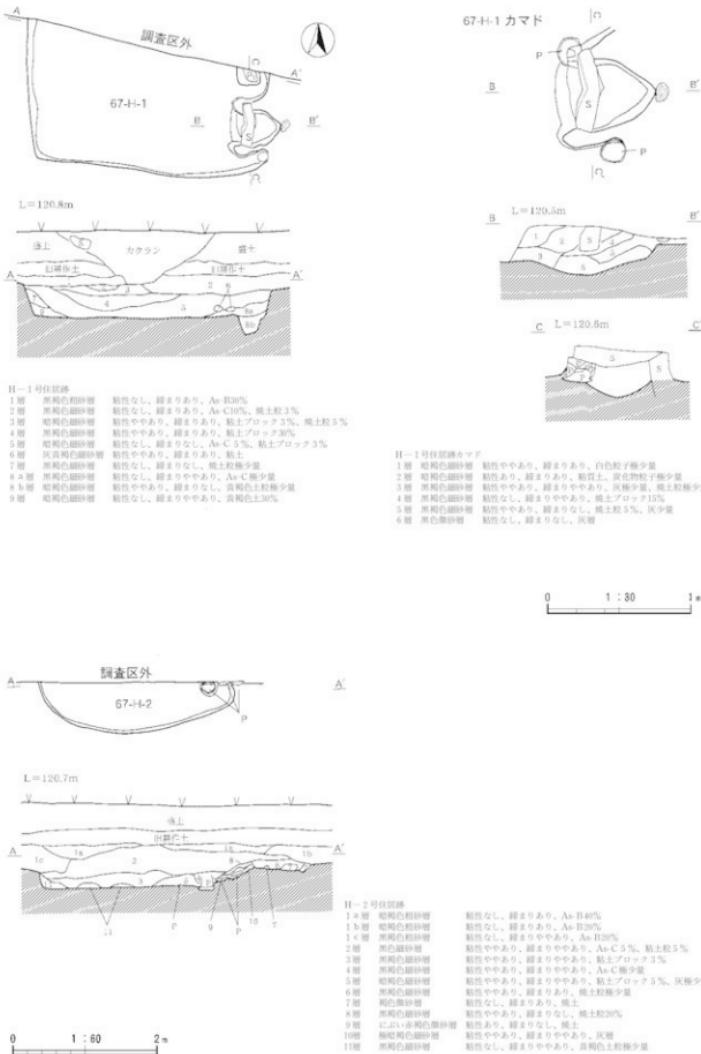


Fig.27 (67) H-1・2号住居跡

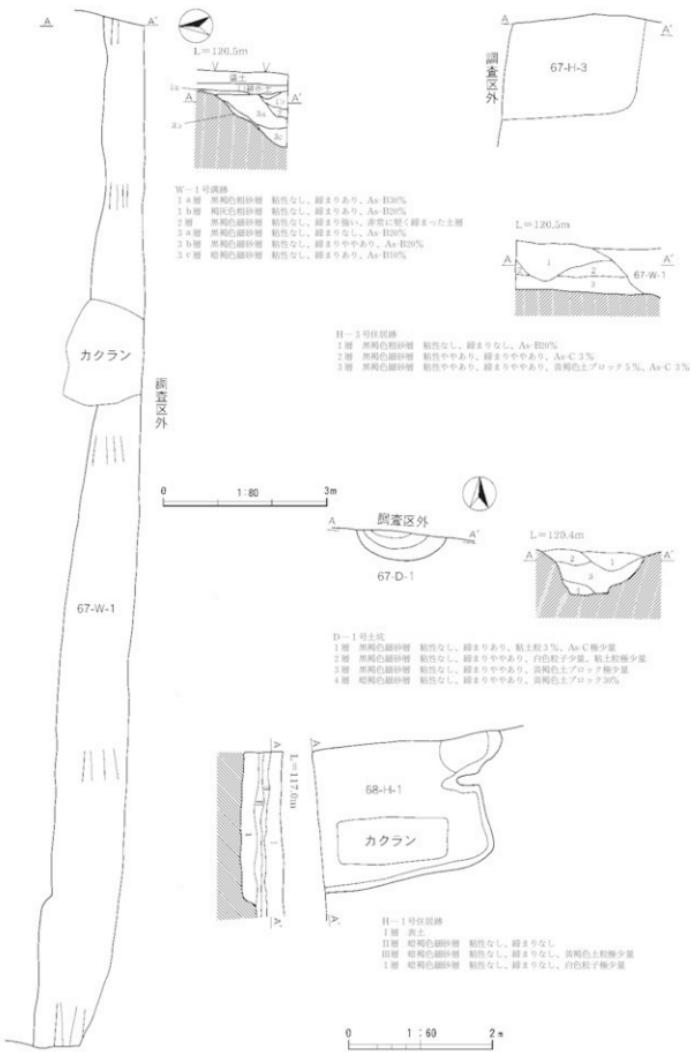


Fig.28 (67) H-3号住居跡、W-1号溝跡、D-1号土坑、(68) H-1号住居跡

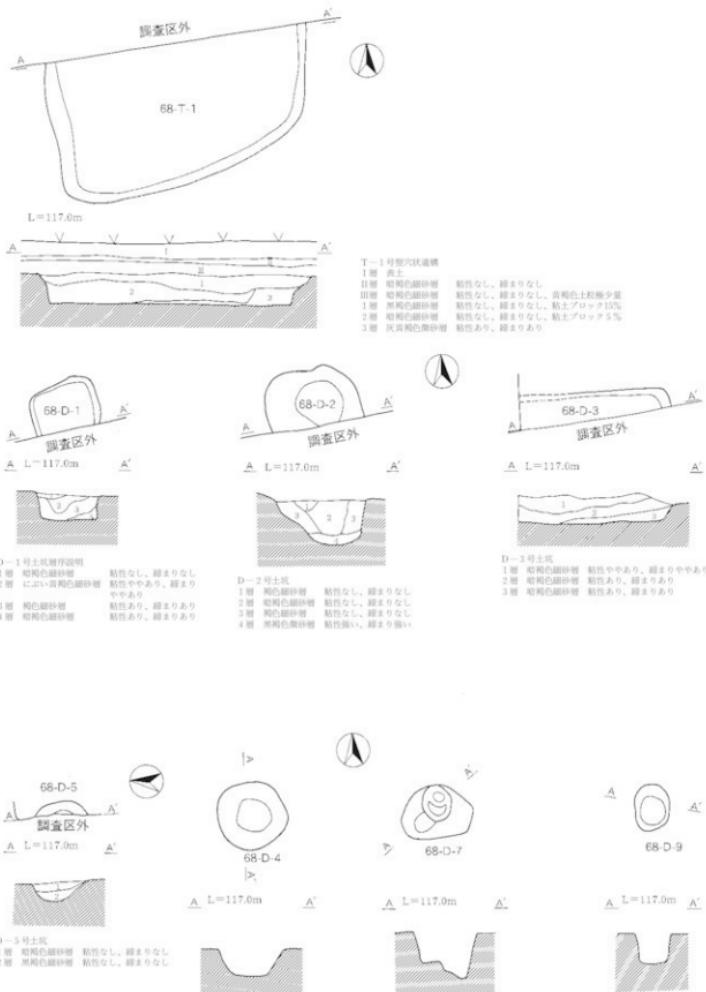


Fig.29 (68) T-1号堅穴状構造、D-1~5・7・9号土坑

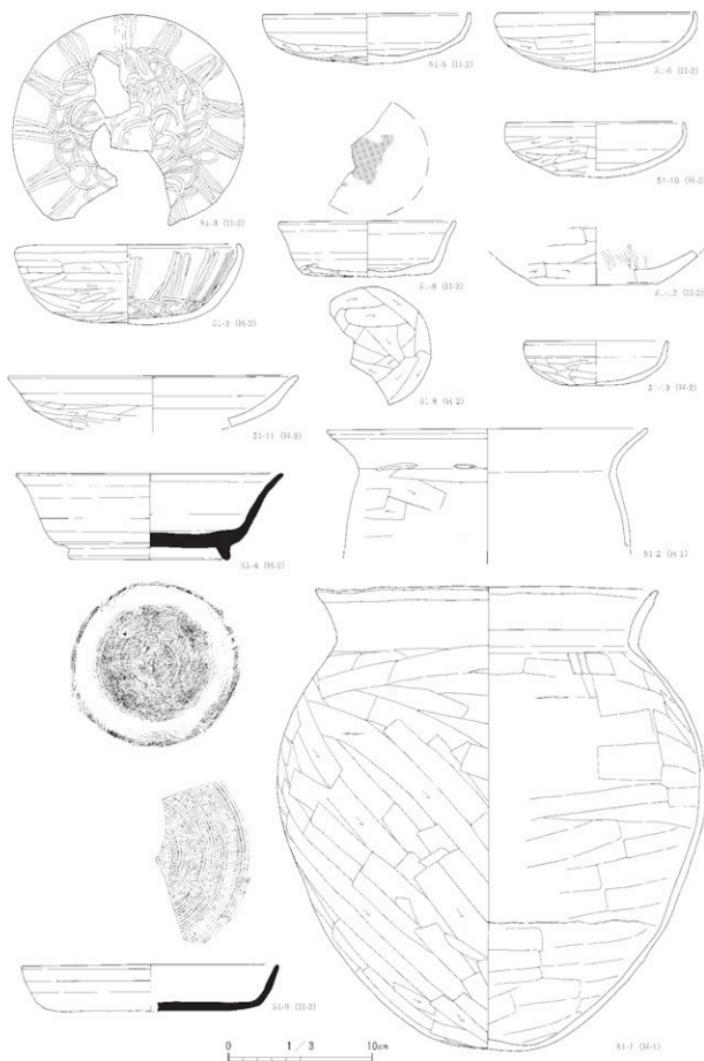


Fig.30 (51) H—1 • 2号住居跡出土遺物

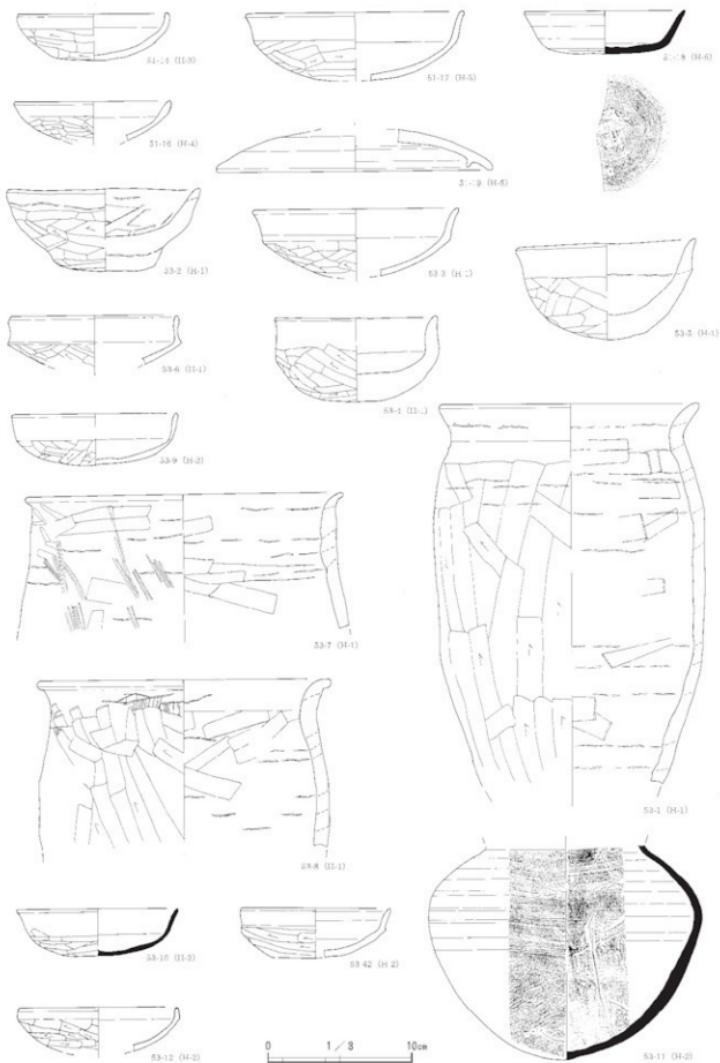


Fig.31 (51) H—3～5号住居跡出土遺物、(53) H—1・2号住居跡出土遺物

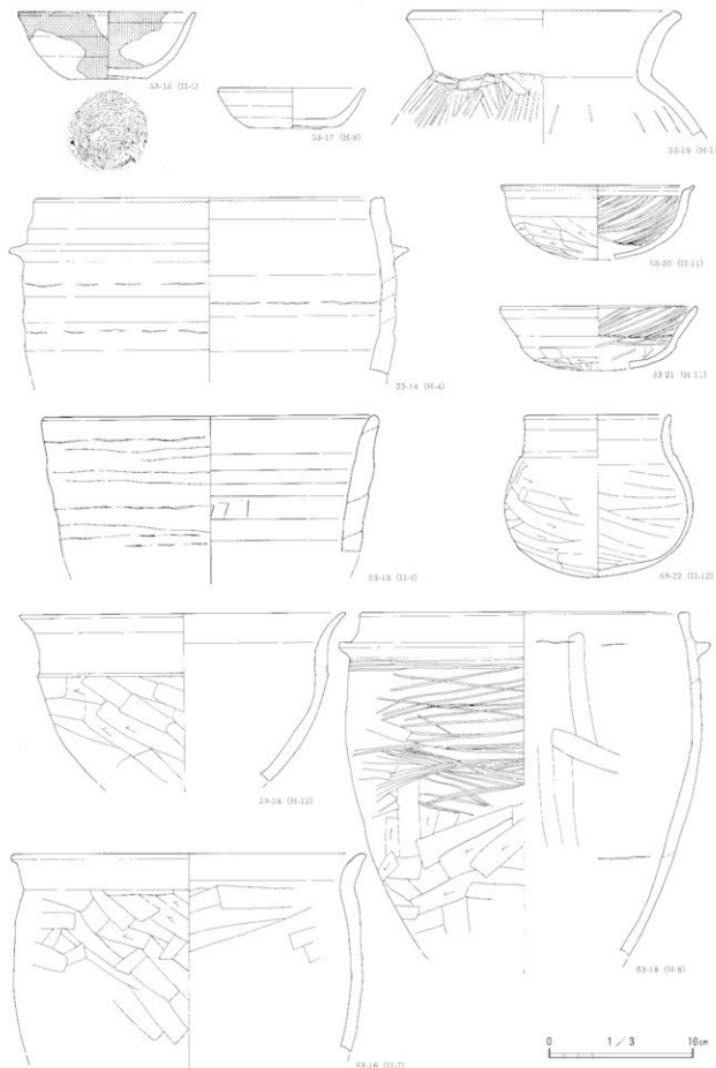


Fig.32 (53) H—4 • 7 • 8 • 11 • 12号住居跡出土遺物

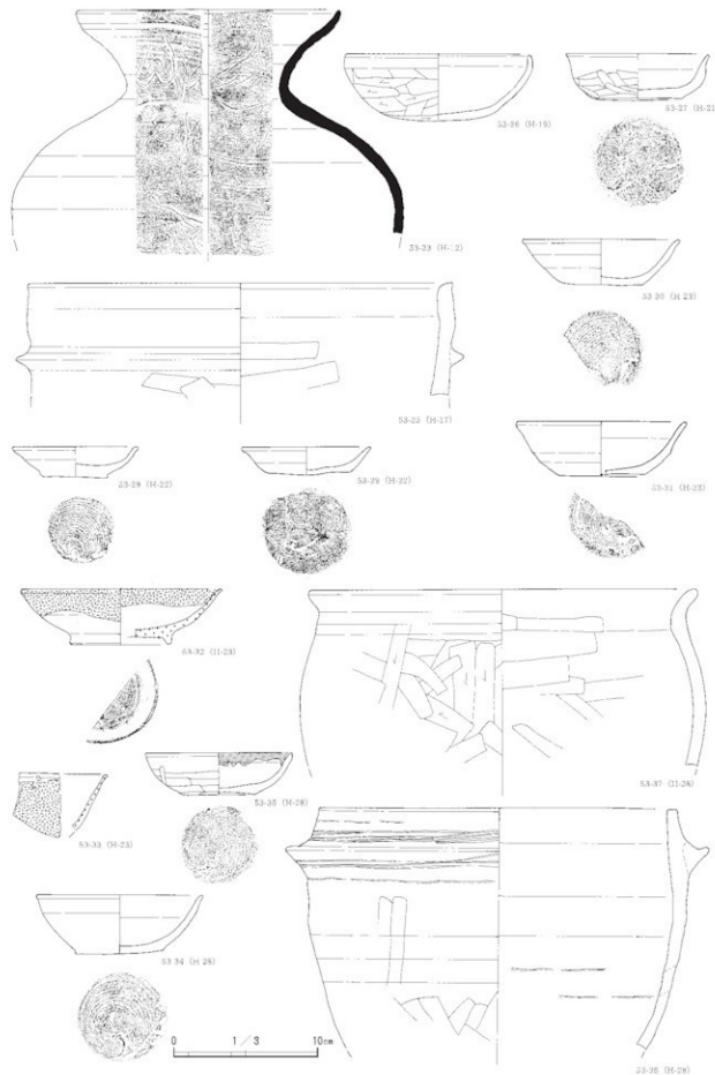


Fig.33 (53) H-12 • 17 • 19 • 21 • 22 • 23 • 28号住居跡出土遺物

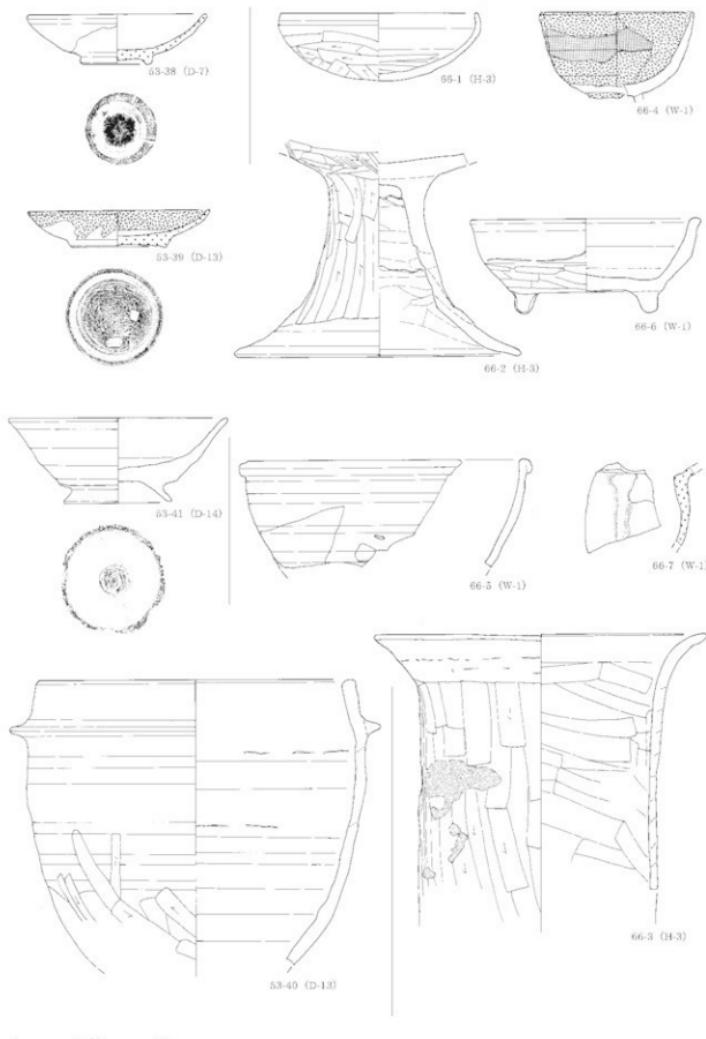


Fig.34 (53) D—7•13•14号土坑、(66) H—3号住居跡、W—1号溝跡出土遺物

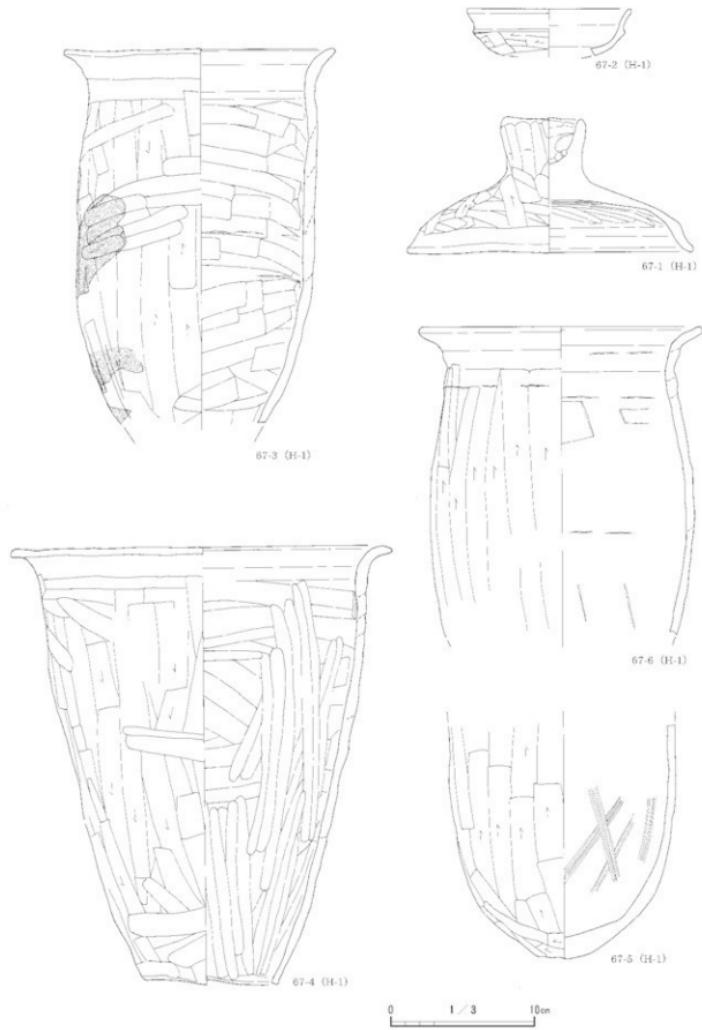
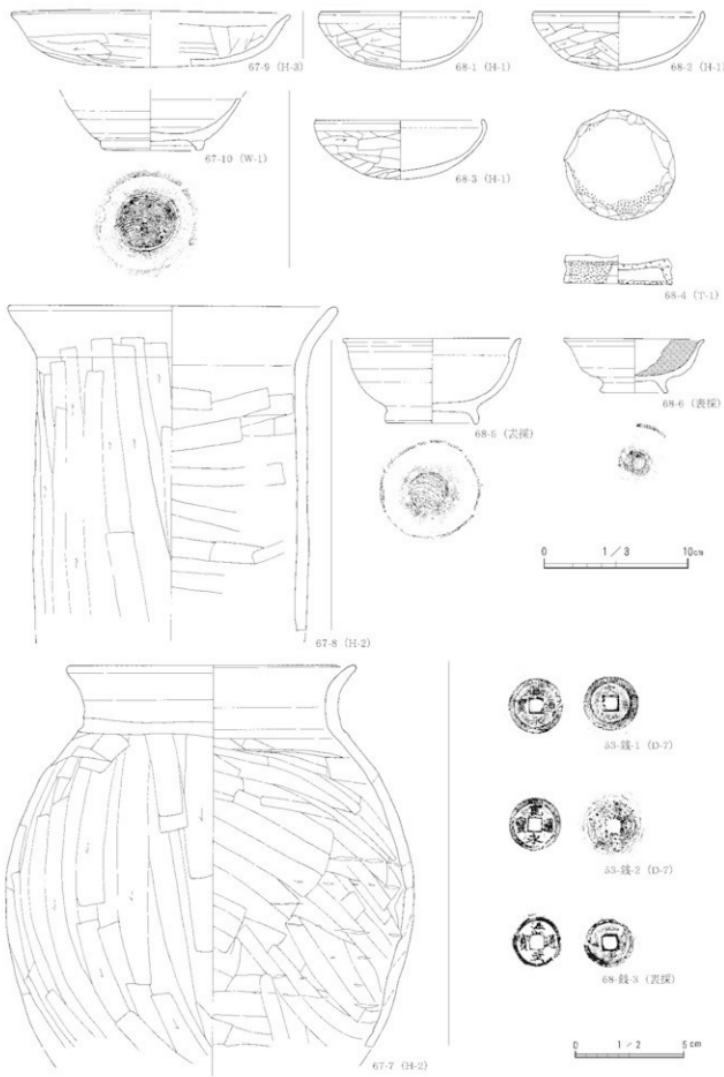


Fig.35 (67) H—1号住居跡出土遺物



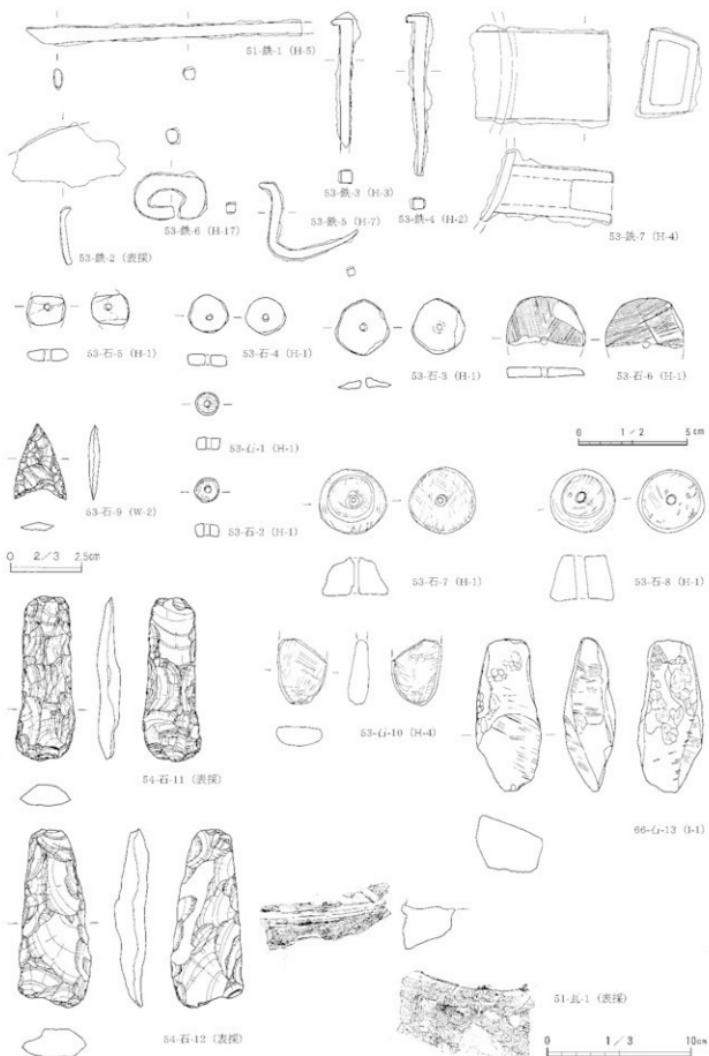


Fig.37 鉄製品、石製品、瓦

図 版



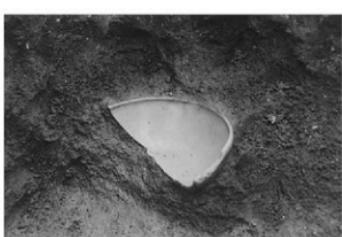
(51) 元龜社跡遺跡群 (51) 調査区全景 南から



(51) H-1号住居跡全景 北から



(51) H-2号住居跡全景 北から



(51) H-2号住居跡出土遺物①



(51) H-2号住居跡出土遺物②



(51) H-3号住居跡全景 西から



(51) H-3号住居跡全景



(51) H-3号住居跡出土遺物



(51) H-4号住居跡全景 東から



(51) H-5・6号住居跡全景 南から



(53) H-1号住居跡全景 南東から



(53) H-1号住居跡全景



(53) H-1号住居跡壺内出土遺物



(53) H-1号住居跡出土遺物



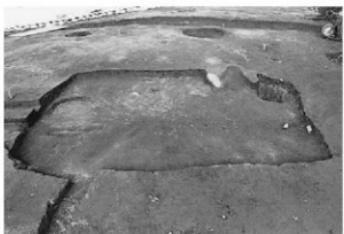
(53) H-1号住居跡出土石製品（臼玉）



元總社蒼海遺跡群（53）遠景 西から



元總社蒼海遺跡群（53）調査区全景 真上から



(53) H-2号居住跡全景 西から



(53) H-2号居住跡出土鉄製品



(53) H-4号居住跡全景 西から



(53) H-4号居住跡出土遺物



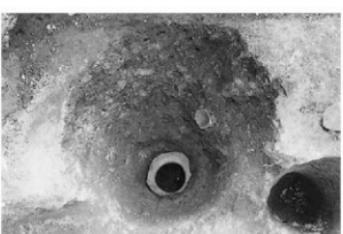
(53) H-7号居住跡全景 西から



(53) H-8号居住跡全景 西から



(53) H-11号居住跡全景 西から



(53) H-11号住居跡貯蔵穴全景



(53) H-17号住居跡全景 西から



(53) H-17号住居跡遺全景



(53) H-12号住居跡作業風景



(53) H-12号住居跡全景 西から



(53) H-12号住居跡出土石製品（白玉）



(53) H-19号住居跡全景 西から



(53) H-21号住居跡全景 西から



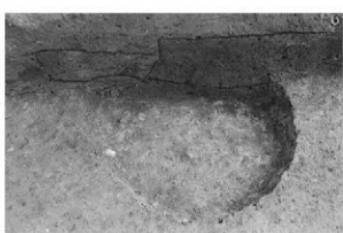
(53) H-22号住居跡全景 西から



(53) H-23号住居跡全景 西から



(53) H-28号住居跡全景 西から



(53) D-1号土坑全景 北から



(53) W-1号溝跡全景 北から



(53) D-2号土坑全景 南から



(53) D-8号土坑全景 東から



(53) D-13号土坑出土遺物



元絶社蒼海遺跡群 (54) 調査区全景 南から

元絶社蒼海遺跡群 (52) 調査区全景 西から



元絶社蒼海遺跡群 (55) 調査区全景 西から



(55) W-3号溝跡全景 西から



元總社舊海遺跡群（66）調査区全景 西から



(66) W-1号溝跡全景 北東から



(66) W-1号溝跡土層断面 北西から



(66) W-1号溝跡作業風景



(66) H-2号住居跡全景 西から



(66) H-3号住居跡全景 西から



(66) H-3号住居跡出土遺物①



(66) H-3号住居跡出土遺物②



(66) H-3号住居跡出土遺物③



元紀社蒼海遺跡群 (67) 調査区全景 西から



(66) I-1号井戸跡全景 西から



(67) W-1号溝跡全景 西から



(67) W-1号溝跡土層断面 西から



(67) H-1号住居跡全景 西から



(67) H-1号住居跡全景 北西から



(67) H-1号住居跡周辺出土遺物



(67) H-1号住居跡全景 真上から



(67) H-1号住居跡出土遺物①



(67) H-1号住居跡出土遺物②



(67) H-2号住居跡全景 西から



(67) H-2号住居跡縫隙部出土遺物



元絶社蒼海道路群 (68) 調査区全景 西から



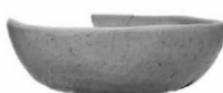
(68) H-1号住居跡全景 北から



(68) T-1号竪穴状遺構全景 北から



(68) D-2号土坑全景 北から



51-3 (H-2)



51-3 (H-2)



51-4 (H-2)



51-5 (H-2)



51-8 (H-2)



51-10 (H-2)



51-13 (H-3)



51-14 (H-3)



51-17 (H-5)

出土遺物 (1)



51-18 (H-5)



53-1 (H-1)



53-2 (H-1)



53-3 (H-1)



53-4 (H-1)



53-5 (H-1)



53-11 (H-2)



53-21 (H-11)



53-9 (H-2)



53-10 (H-2)



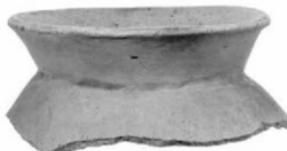
53-22 (H-12)



53-15 (H-4)



53-18 (H-8)



53-19 (H-11)

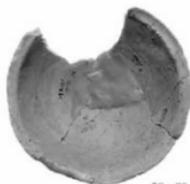
出土遺物 (2)



53-20 (H-11)



53-24 (H-12)



53-20 (H-11)



53-28 (H-22)



53-26 (H-19)



53-34 (H-28)



53-38 (D-7)



66-3 (H-3)



66-6 (W-1)



53-38 (D-7)



53-39 (D-13)



68-2 (H-1)



66-2 (H-3)



66-1 (H-3)



出土遺物 (3)

68-1 (H-1)



出土遗物 (4)



53-石-9 (W-2)



54-石-12(表様)



54-石-11(表様)



53-石-1 (H-1)



53-石-2 (H-1)



53-石-3 (H-1)



53-石-4 (H-1)



53-石-5 (H-1)



53-石-6 (H-1)

出土遺物 (5)



53-石-8 (H-1)



53-石-7 (H-1)



53-石-10 (H-4)



66-石-13 (I-1)



68-铁-3 (表採)



53-铁-1 (D-7)



53-铁-2 (D-7)



53-铁 (D-7)



53-铁 (D-7)

51-铁-1
(H-5)53-铁-4
(H-2)53-铁-3
(H-3)53-铁-7
(H-4)

53-铁-5 (H-7)

出土遗物 (6)



53-铁-6 (H-17)



53-铁-2 (表採)

抄 錄

フリガナ	モトソウジャオウミイセキグン
書名	元総社蒼海遺跡群 (51)、(52)、(53)、(54)、(55)、(66)、(67)、(68)
副書名	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
卷次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	小峰 壴・渡辺亮介
編集機関	前橋市教育委員会
編集機関所在地	〒371-0853 群馬県前橋市元総社町三丁目11番4号
発行年月日	西暦2014年3月28日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		位 置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東經			
モトソウジャオウミイセキグン 元総社蒼海遺跡群 (51)	モトソウジャオウミイセキグン 前橋市元総社町1732-1他	10201	25A149	36°23'24"	139°01'54"	20130702 ↓ 20130827	143m ²	前橋都市計画 事業元総社蒼 海土地区画整 理事業
モトソウジャオウミイセキグン 元総社蒼海遺跡群 (52)	モトソウジャオウミイセキグン 前橋市元総社町1567-3	10201	25A150	36°23'15"	139°01'50"	20130710 ↓ 20130719	16m ²	
モトソウジャオウミイセキグン 元総社蒼海遺跡群 (53)	モトソウジャオウミイセキグン 前橋市元総社町3103	10201	25A151	36°23'24"	139°02'19"	20130722 ↓ 20131105	348m ²	
モトソウジャオウミイセキグン 元総社蒼海遺跡群 (54)	モトソウジャオウミイセキグン 前橋市元総社町1701-3他	10201	25A153	36°23'26"	139°01'51"	20130828 ↓ 20130906	78m ²	
モトソウジャオウミイセキグン 元総社蒼海遺跡群 (55)	モトソウジャオウミイセキグン 前橋市元総社町1306-2他	10201	25A154	36°23'05"	139°01'59"	20130828 ↓ 20130906	151m ²	
モトソウジャオウミイセキグン 元総社蒼海遺跡群 (66)	モトソウジャオウミイセキグン 前橋市元総社町1885-1	10201	25A165	36°23'19"	139°02'12"	20131001 ↓ 20131011	155m ²	
モトソウジャオウミイセキグン 元総社蒼海遺跡群 (67)	モトソウジャオウミイセキグン 前橋市元総社町1335他	10201	25A166	36°23'07"	139°01'53"	20131009 ↓ 20131107	89m ²	
モトソウジャオウミイセキグン 元総社蒼海遺跡群 (68)	モトソウジャオウミイセキグン 前橋市元総社町2170-1他	10201	25A167	36°23'07"	139°02'08"	20131031 ↓ 20131127	78m ²	

所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
元總社蒼海遺跡群 (51)	集落跡	奈良・平安	竪穴住居跡6軒	盤、坏、甕	螺旋状暗文を有する环形土器
元總社蒼海遺跡群 (52)			遺構なし		
元總社蒼海遺跡群 (53)	集落跡	奈良・平安	竪穴住居跡18軒 溝跡2条、土坑16基	坏、甕、灰釉陶器、白玉、 纺錘車、古錢（寛永通宝）	
元總社蒼海遺跡群 (54)			遺構なし	打製石斧	
元總社蒼海遺跡群 (55)	集落跡	奈良・平安	竪穴住居跡2軒 溝跡2条、土坑1基		
元總社蒼海遺跡群 (56)	集落跡	奈良・平安	竪穴住居跡3軒 溝跡1条、土坑1基 井戸跡2基	坏、高坏、尾呂茶碗、鉢	
元總社蒼海遺跡群 (67)	集落跡	奈良・平安	竪穴住居跡3軒 溝跡1条、土坑1基	坏、長胴甕、瓢	土器蓋
元總社蒼海遺跡群 (68)	集落跡	奈良・平安	竪穴住居跡1軒 竪穴状遺構1軒、土坑8基	坏、明鏡（洪武通宝）	

元總社蒼海遺跡群 (51)(52)(53)(54)(55)(66)(67)(68)

2014年3月13日 印刷
2014年3月28日 発行

発行・編集 前橋市教育委員会 文化財保護課
前橋市總社町三丁目11番4号
印 刷 朝日印刷工業株式会社
